

# 和歌山市民の食料消費生活

—シアトル市・神戸市との比較を中心に—

山 田 良 治

## 1. はじめに

近年、我が国の食料消費生活は極めて大きな変貌を見せている。「アメリカ型生活様式」浸透の一環としての、いわゆる食生活の「洋風化」と呼ばれる事態を基本的傾向としつつ、同時に西欧とは違った「日本型食生活」の優位性が喧伝されている。

こうした食料消費生活変貌の背景に、それを基本的に規定するものとして食料の生産・流通構造の発展があるとするならば、そこでは日本農業（及び漁業）をめぐる生産・流通の在り方が問われるであろうし、同時に今や我が国食料供給の基幹部分を占める輸入食糧の動向が注目されなければならない。もっとも反面、食料消費生活の在り方は食料の生産・流通構造のそれを規定する側面を持っているのであり、食料問題や農業問題の構造を把握するためには、要は生産・流通・消費の総過程をトータルに考察することが求められよう。

ところで、ここでの分析方法の特徴は、アンケート調査という方法に依拠したことである。一般的な統計分析などと比較したアンケート分析の限界はあるとしても、逆にアンケートならではの長所もあり、とりわけ日米ほぼ同時に、ほぼ同じ設問によって、さらには全く同じ調査方法によって得られたデータという点では、それ自体興味深い事実を提供するものといえよう<sup>(1)</sup>。以下では、今

(1) 今回の調査のうち、神戸市とシアトル市（米国）のそれは1988年の6月から7月にかけて、ワシントン州立大学のジュソーム（Raymond Jussaume）博士ととも

回の調査結果のうち特に課題に関連が深いものを抽出・分析するなかで、現代の我が国食料消費生活の諸特徴を、ひとつにはアメリカとの比較とで捉えようとするものであり、ひとつには国内他地域（「洋風化」先進地域としての神戸市）との比較を通じた和歌山市の食料消費生活として検討しようとするものである。

## 2. 調査方法及びデータ

調査対象地は和歌山市・神戸市・アメリカ合衆国シアトル市の3市である。調査は、1988年6月のシアトル市をかわきりに、同6～7月神戸市、同8～9月和歌山市の順に、郵送調査により実施した。対象者は、コンピューターにより電話帳から無作為に抽出したもので、調査票を送付できた和歌山市572人・神戸市795人・シアトル市679人のうち、順に323人・416人・384人から回答が返送された。回収率はそれぞれ56.5%・52.3%・56.6%であった。いずれも50%を越えるこれらの数値は、本データが十分に統計分析に<sup>(2)</sup>応え得るものであることを示している。

---

✓に行ったものである。その分析結果の概要は既にジュソーム氏の手により、“Food Consumption in Seattle, WA. and Kobe, Japan” (1989), Washington State University IMPACT Center. という形で公表されている。本稿は、(財)和歌山大学経済学部後援会の助成を受け、和歌山大学経済研究所の「地域研究」の一環として、当方で単独に実施した1988年8月から9月にかけての和歌山市での調査データをそれらの調査データに加え、和歌山市のデータを中心に独自の観点から取りまとめたものである。なお、参考までに和歌山市の単純集計結果を稿末にかかげておく。

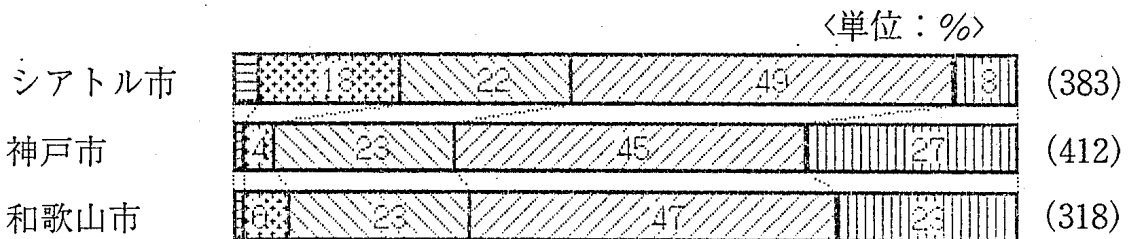
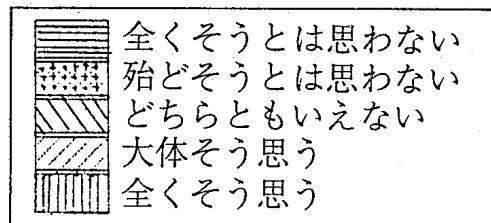
(2) アメリカではかなり一般的に行われてきた郵送調査であるが、日本では従来その回収率の低さ（常識的には20～30%と言われてきた）のため、あまり一般的に用いられてこなかった。今回の郵送調査の中で、日本での回収率がアメリカのそれとほとんど同じであり、かつ50%を超える結果を得たことは、今後の我が国における調査のあり方にひとつの可能性を示したといえよう。なお、今回の調査に関する調査方法論については、ジュソーム氏との共同執筆の論文が近々“Public Opinion Quarterly”誌（米国）に掲載される予定である。

### 3. 簡便化志向と食料品の購入行動

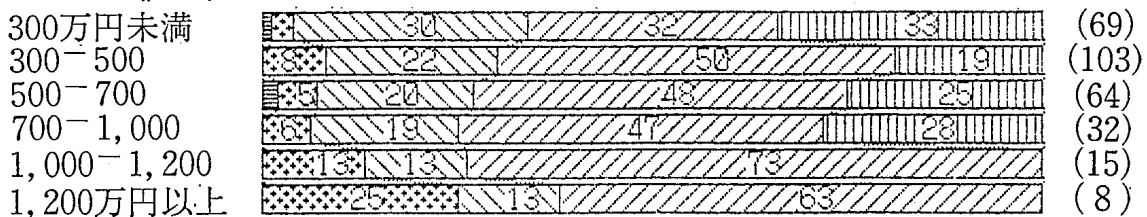
1970年代後半以降顕著になってきた現象のひとつに、女子不安定労働市場の発達を背景とした家族再生産における「価値分割」＝「共働き」の進展がある。これは、高度成長期を通じて広く形成されてきた、「夫＝仕事・妻＝家事」という家族内分業を基礎におく戦後「核家族」形態の変質・崩壊の始まりを意味するものであった。それとともに、主婦にとっては、消費労働がともかくも全面的で主体的な管理の作業であることから、補完的で義務的なものにしてに転換することとなった。買物について言えば、とりわけ日常の義務的なそれは、

図1 食料品の買物に対する感覚 (I)

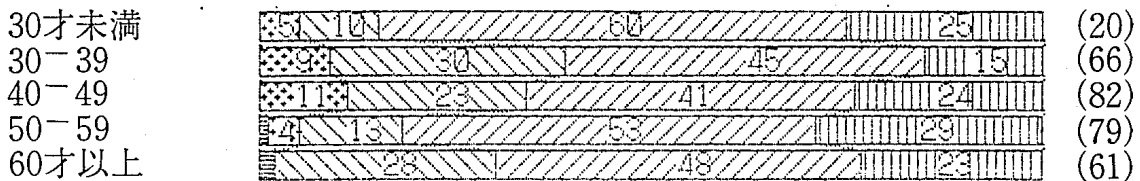
食料品の買物は  
楽しい



〔所得階層別：和歌山市〕



〔年齢階層別：和歌山市〕



注1) %ベース (カッコ内の数値) には無回答は含まれていない  
 2) 所得階層 = 世帯の所得階層. 年齢階層 = 回答者自身の年齢階層  
 3) 上記1) ~ 2) は図5・6・10を除くすべての図に共通

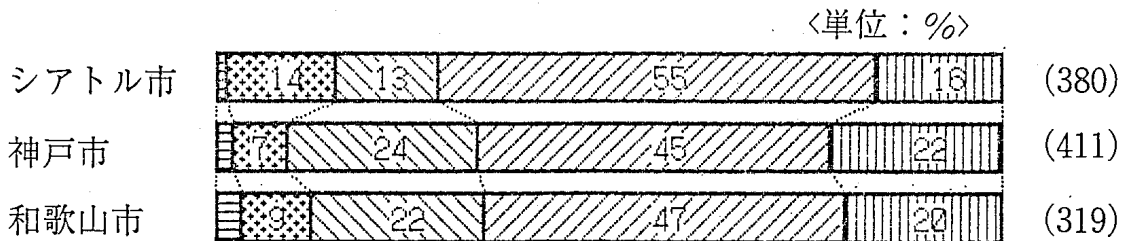
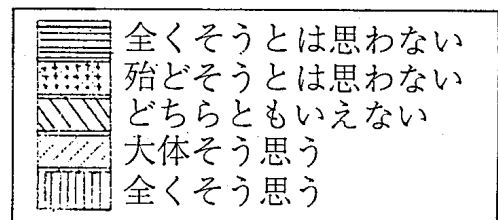
「楽しみ」ではなく「苦痛」のトーンを強めざるをえない。<sup>(3)</sup> 食料品の購入は、まさにそうした義務的な消費労働のもっとも基幹的な部分をなす。

図1は、「食料品の買物は楽しい」という意見への判断をみたものである。地域別ではアメリカ（シアトル市）においてヨリこうした傾向が進んでいることがわかる。日本（以下和歌山市と神戸市を一括する場合にこう表現する）では、なお7割の人々がこの意見に同意している。もっとも、これを所得階層別・年齢階層別にみると、低所得層及び子育てで忙殺される30才代前後で同意する割合が低い。すなわち、食料品の買物を「楽しみ」と感じるためには、資金的・時間的余裕が必要であることを物語る。

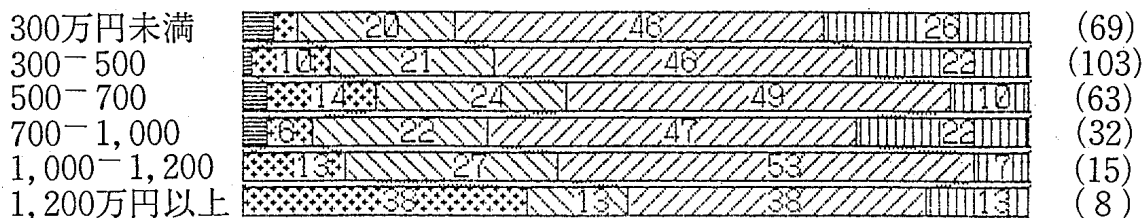
価値分割の進行はまた、調理労働の簡便化傾向を生み出す。それは主として、食事にかかわる消費的労働が家庭内の自給的労働から、商品化を通して外部の社会的労働へ代替していく過程、すなわち食生活の社会化として現象する。加

図2 食料品の買物に対する感覚（Ⅱ）

調理のし易さを考えて  
買物をする



〔所得階層別：和歌山市〕



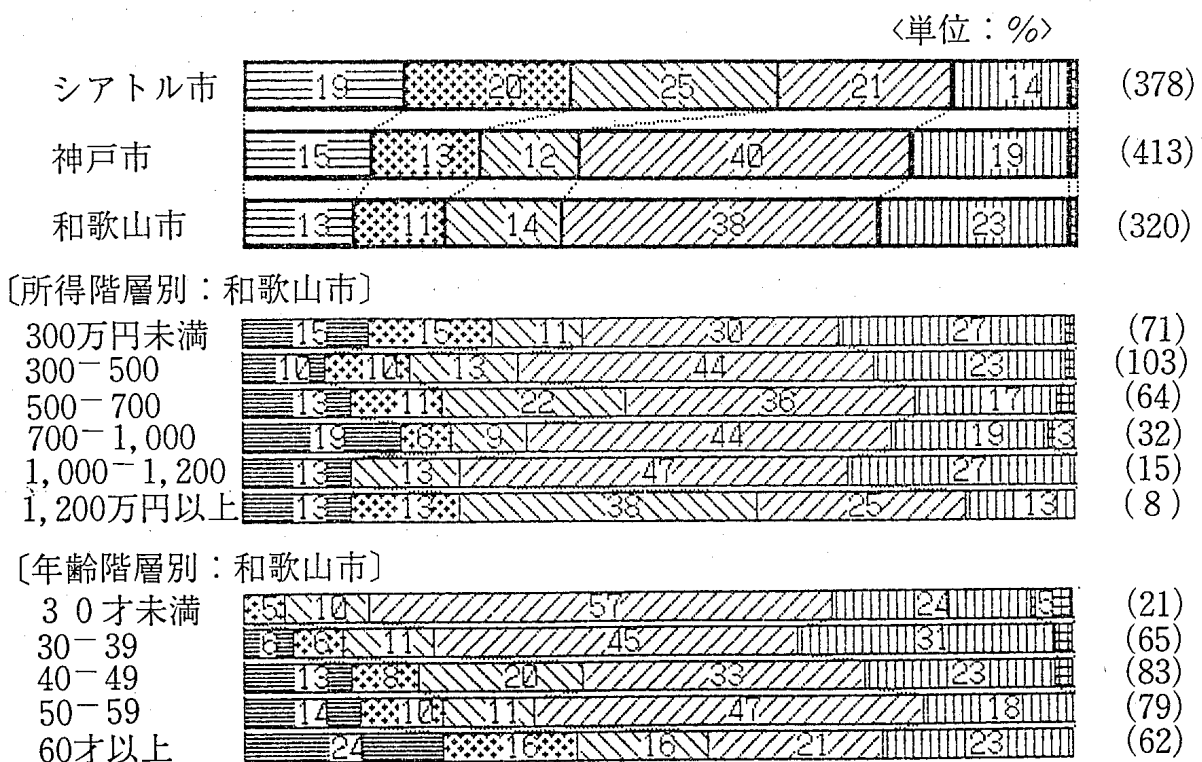
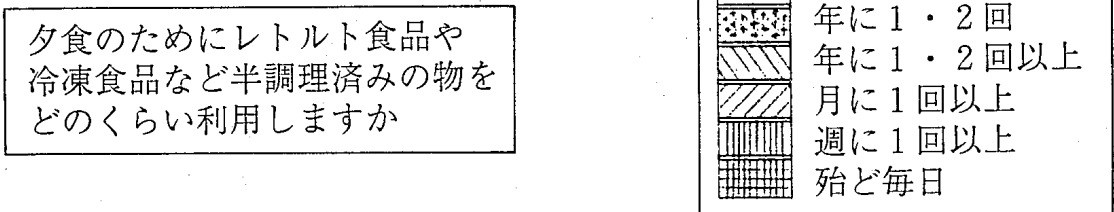
(3) 「義務的消費に関する買物は、楽しみというよりは家事労働の一種となり、次第に苦痛になってきた、と感じている消費者が増えている。」（小沢雅子『新階層消費の時代』日本経済新聞社、1985年、53ページ）。

工食品の利用は調理労働の代替過程であり，外食の場合にはメニューを選択し食べることを以外の労働がすべて社会的労働によって代替される。ここではこのうち加工食品の利用状況を中心に若干のデータを示しておこう。

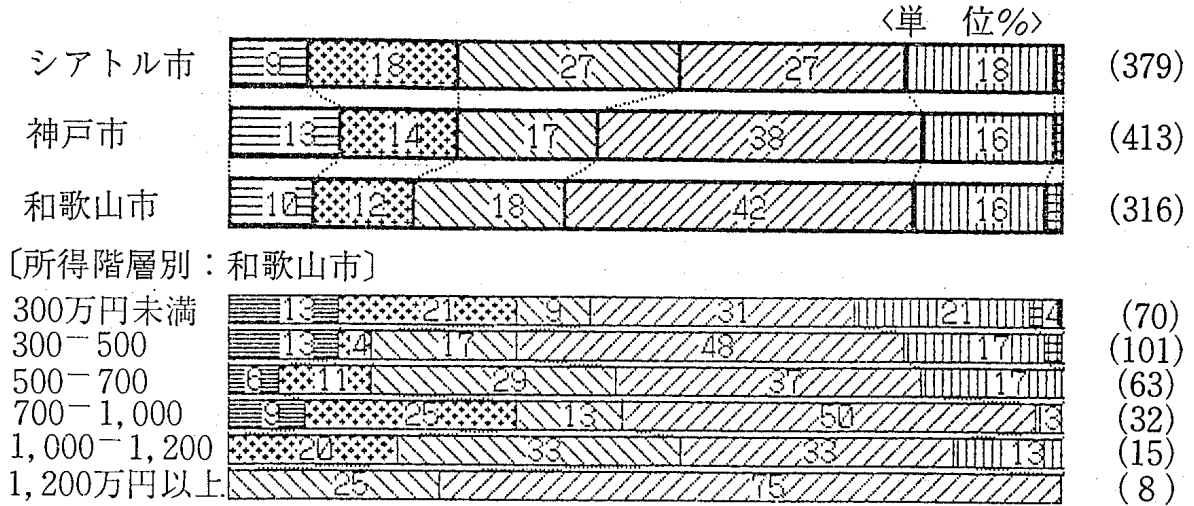
簡便化志向をまず買物行動における意識としてみたのが図2である。「調理のし安さを考えて買物をする」かどうかという問に対して，日米両国とも65～70%程度の同意がみられ，日本では特に「まったくそう思う」の比率が高い。こうした意見の担い手を所得階層性の観点からみると，低所得者ほどそうした傾向が強いことがわかる。年齢的にいえば，まだ家族を形成していない低年齢層を中心とする部分であり，家事労働の担い手が脆弱な部分で特に簡便化志向が強いことを示している。

実際の加工食品の利用状況については図3に示すとおりである。まず，レト

図3 加工食品の利用状況 (I)



夕食のために売っているそうざいや出前など調理済みのものを家でどのくらい利用しますか



〔年齢階層別：和歌山市〕

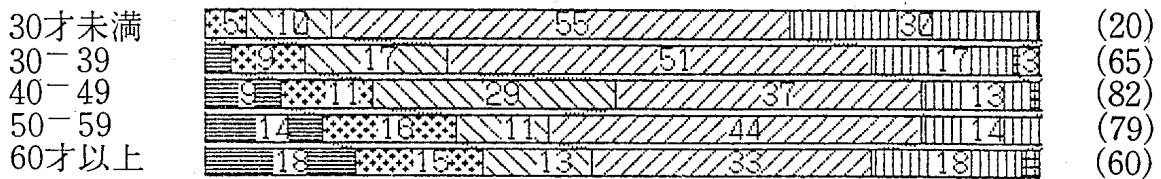
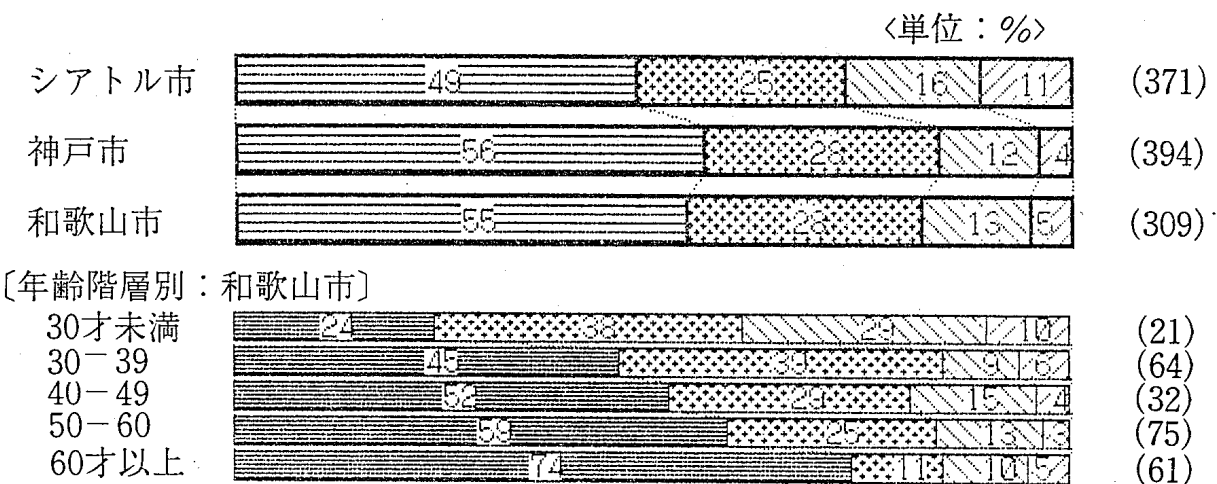
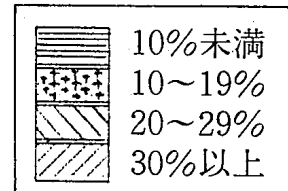


図4 加工食品の利用状況(Ⅱ)

月々の食費の内加工食品の購入費は何%になりますか



ルト食品やそうざいなど利用状況をみると、その地域的特徴は日米間では日本の方がこれらの加工食品の利用頻度が高い。和歌山市と神戸市との比較では、前者の方が利用頻度が高く出ている。また、所得階層別・年齢階層別では、全

体としてみれば所得・年齢とも低い方で利用度が高い（ただし、年齢階層別では65才以上の高齢層でも高い）。

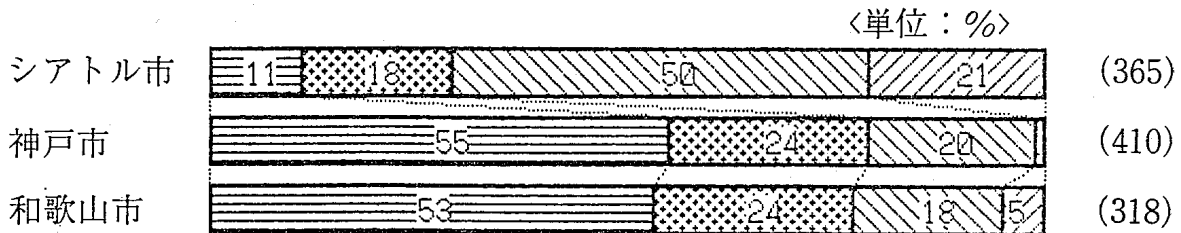
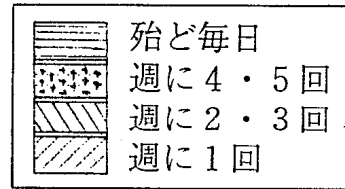
しかし、加工食品の利用を食費に占める金額の面からみるとアメリカ（シアトル市）の方が高く出ている（図4）。和歌山市と神戸市との関係、また年齢別の傾向は利用頻度の場合と同様である。

ともあれ、和歌山市においては、神戸市に比べて買物意識や加工食品の利用において、簡便化志向という視点からすればヨリ「進んだ」実態がみられる。これは、こうした点での変化が、まず所得的には低所得者層、年齢的には若齢層において、少なくとも形態面で先行的に現れることを、特に前者の階層性を<sup>(4)</sup>地域的に反映したものと考えられる。

さて、食料品の買物について、日米間で非常に異なっているのはその頻度である（図5）。アメリカ（シアトル市）の場合、7割近くの人々が週2～3回以下であるのに対し、日本では、8割近くの人々が4～5回以上も買物に行って

図5 買物の頻度

週に何回くらい食料品の買物にかけますか



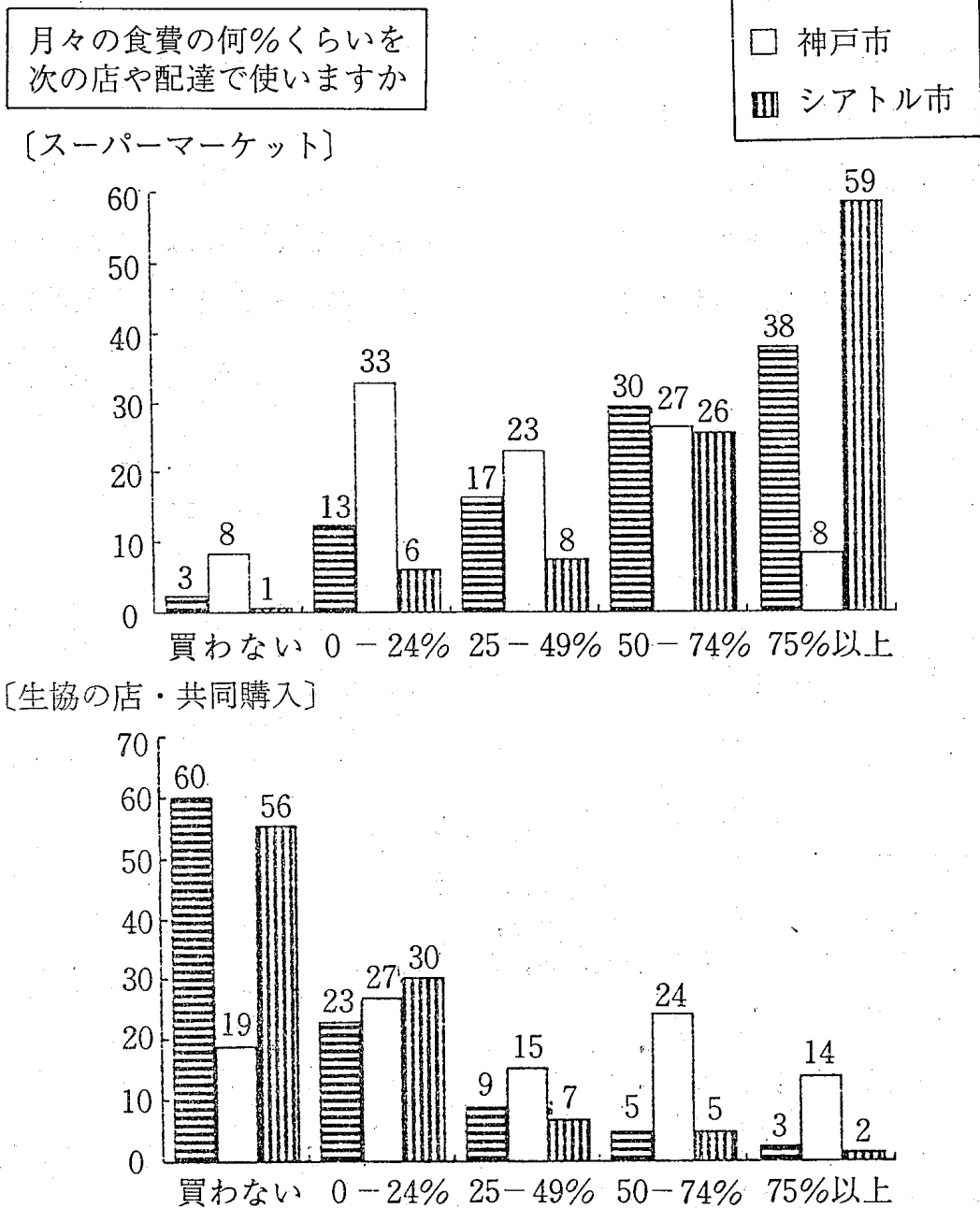
注) 配達を含む

(4) 和歌山市の所得水準は神戸市に比べて低位にあるが、今回のアンケート調査でもその点は明確に現れている。すなわち、和歌山市では世帯の年間所得300万円未満が24.2%であるのが神戸市では11.4%、逆に700万円以上では順に19.0%、29.6%となっている。これは、両地域の地域的差異が一定程度、所得階層性を反映したものであることを示している。また、具体的な数値は省略するが、所得階層性は年齢階層性との相関性が高い。すなわち、いわゆる定年の時期に当る55才ごろまでパラレルの関係を保ち、その後は年齢の上昇とともに所得が低下する関係が認められる。本稿では、和歌山市のデータをヨリ具体的にみる場合に主として年齢階層性を検討し、場合によって所得階層性などの観点から検討を加えている。

いる。これは、ひとつには日本の主たる買物担当者である「専業主婦」「共働き主婦」が相対的にはなお時間的余裕を持っていることによるものであるが、同時に貯蔵期間の長い冷凍食品等に対する許容条件（食品市場構造・家庭での貯蔵能力等）の歴史的な違いによるところが大きいと考えられる。

これらの買物が主としてどこで行われているかという点でも、地域別に大きな違いがみられる。図6においてまずスーパーマーケットへの食費支出状況を

図6 支出先別食費支出状況

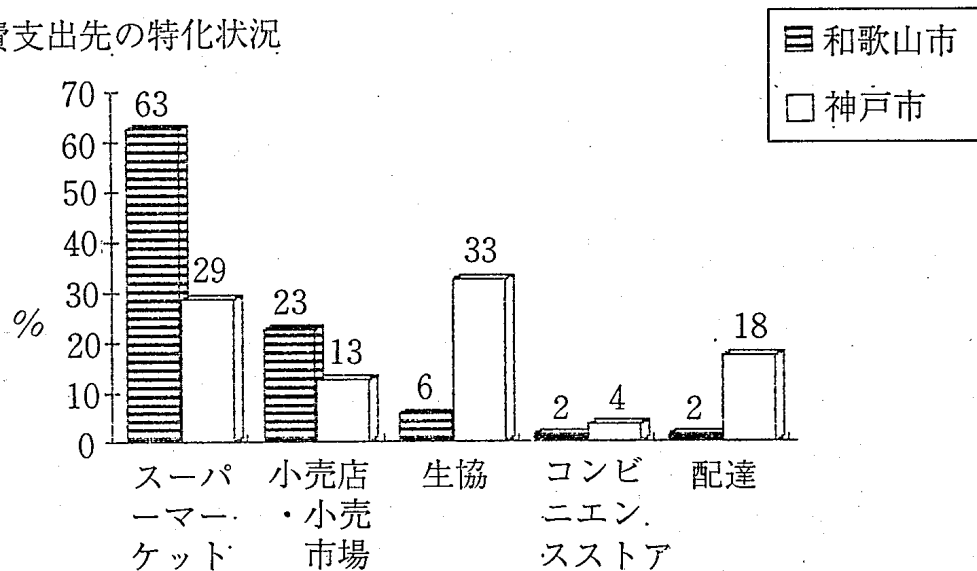




みると、そこで75%以上の買物をしている人の割合は、シアトル市で59%にのぼり、次いで和歌山市が38%となっている。神戸市が8%と低いのは、生協の利用度が極めて高いという神戸市独自の理由によるものである。

この図6は、既に和歌山市においてもアメリカ（シアトル市）ほどではないにせよ、食料品流通におけるスーパーマーケットの市場占有・支配を物語るものであるが、同時に注目しておきたいことは在来の小売商店の比率がなお一定のシェアを保っていることである。これは、消費者が各々の食費支出の50%以上をどこで使っているかをみた図7によって確認できる。和歌山市では神戸市

図7 食費支出先の特化状況



注) 各々の支出先で食費の50%以上を使っている世帯の比率

に比べて「小売店・小売市場」の比率が高く、23%すなわちおよそ4人に1人がこうした小売商店の常連客なのである。

我が国では、明治末期以降、とりわけ戦後の高度成長期において、「米食型食生活」ならびに「簡易洋食」を柱とする日本独自の食生活スタイルが確立されたが、それを流通の面から支えたのが「八百屋」「魚屋」等の一般商店（街）<sup>(5)</sup>や小売市場の発達であった。一般的にはスーパーマーケットに代表される新た

(5) 「米食型食生活」の形成・発展過程については、秋谷重男・吉田忠『食生活変貌のベクトル』（農文協，1988年）の吉田氏執筆部分を参照。

な小売業の発達は、こうした在来の小売業の駆逐過程として、地域的には特に、郊外型の新興住宅地域において顕著に進んできたものである。しかし反面、和歌山市がその典型事例のひとつであるように、都市集積がなおその内部に在来の住宅地を一般的に残存させている場合には、大規模店舗の新規立地が用地取得の点からも困難であるという事情とあいまって、いぜんとして在来型小売商店の広範な存続を可能としているのである。

こうした事情は、食料品市場構造と食生活構造の深い関連という視点からするならば、当然、和歌山における「米食型食生活」（「簡易洋食」に先導された「洋風化」を含む）の相対的な強さを予測させるものである。この点を中心に、和歌山市民の食生活の特徴を確認することが次の課題である。

#### 4. 食事・間食の実態

##### 1) 主食及びそれに類するもの

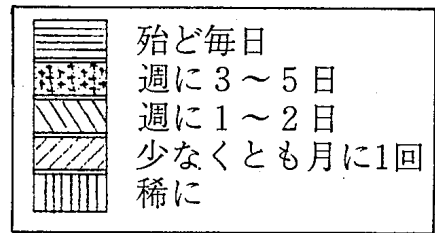
周知のように消費者の「米ばなれ」が進んでいるが、図8に示されるように日本ではいぜんとして9割を超える人々が米を毎日食べている（これはアメリカ・シアトル市を大きく引離すものであるが、同時にそこでも過半数の人々が週1回以上米を食べていることが注目される）。ただし、年齢階層別にみれば、必ずしも毎日食べない人の割合が30才未満の若年層で高くなっており、「若者の米ばなれ」を指摘することができる。<sup>(6)</sup>

めん類も同様の日米間格差があるが、米ほどの開きはない。

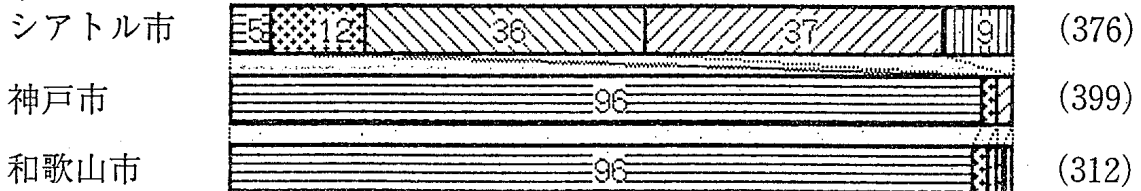
たいへん興味深いのは、パンの摂取頻度である。パンをもっとも頻繁に食べているのはシアトル市ではなく神戸市であり、毎日食べる人が72%に達してい

(6) 87年に実施された総理府のアンケート調査によれば、「おコメは日本人の主食として最もふさわしい」と考える人が年々増加し、95.4%を占めるに至った。ただし、年齢階層別にみると、概して若年層ほど肯定的意見は少なくなり、例えば30才台では94.0%、20才台では91.1%となっている。これを職業別にみると、「学生」や「管理・専門技術・事務職」で否定的な意見が相対的に強い。「米ばなれ」の主役はこうした階層である。（総理府広報室編『日本人の食生活と食料問題』1988年）

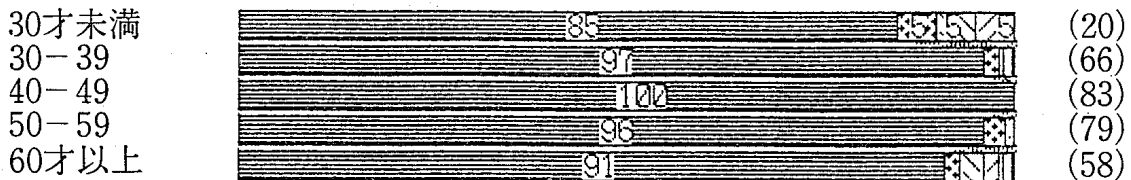
図8 主食またはそれに類する食品の摂取頻度



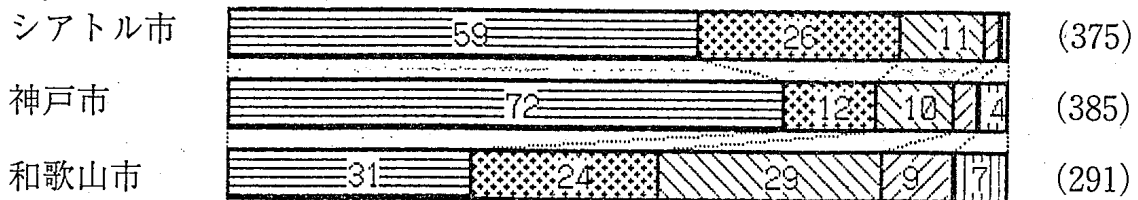
〔米〕



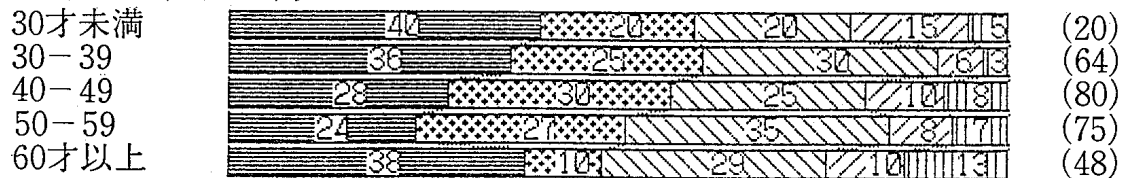
〔年齢階層別：和歌山市〕



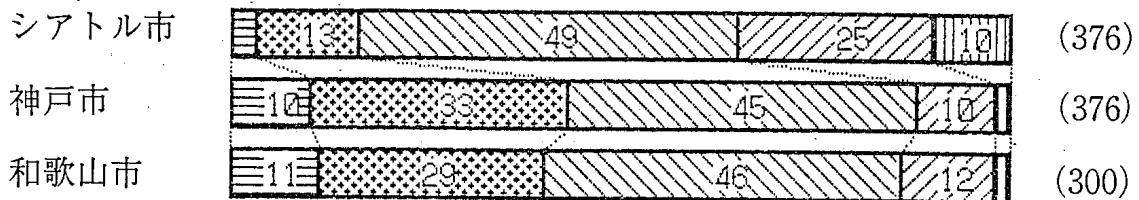
〔パン〕



〔年齢階層別：和歌山市〕



〔めん類〕



〔コーンフレーク・クラッカーなど〕

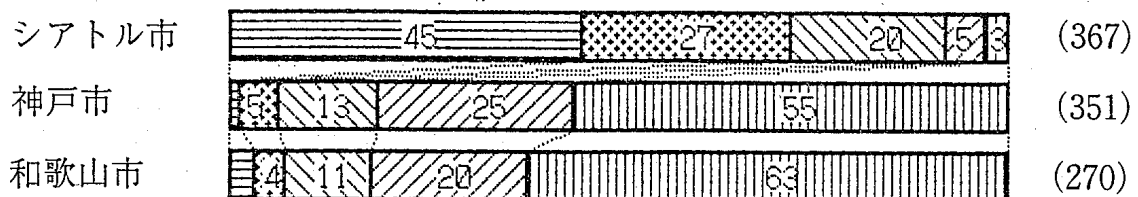
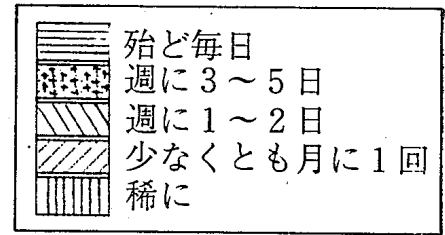
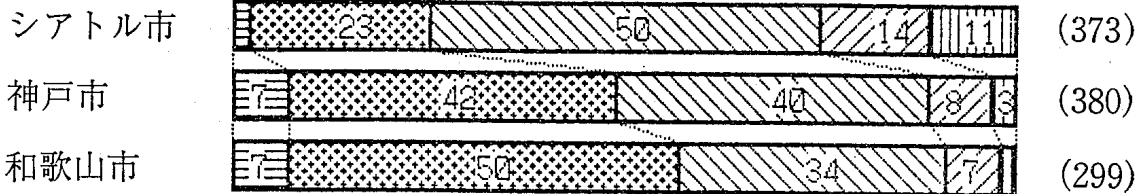


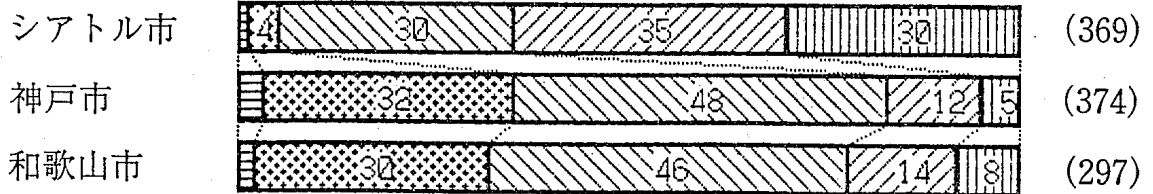
図9 肉類の摂取頻度



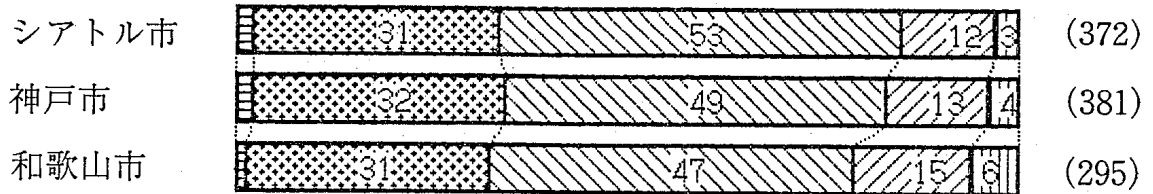
〔牛肉〕



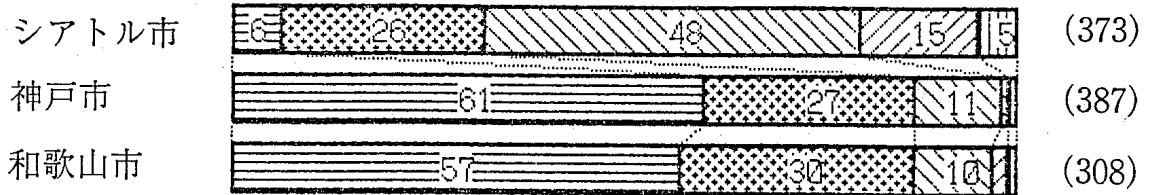
〔豚肉〕



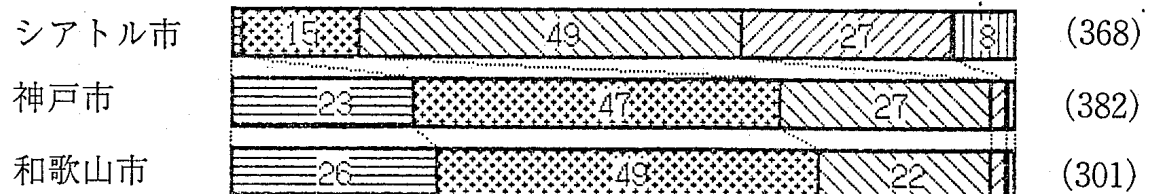
〔鳥肉〕



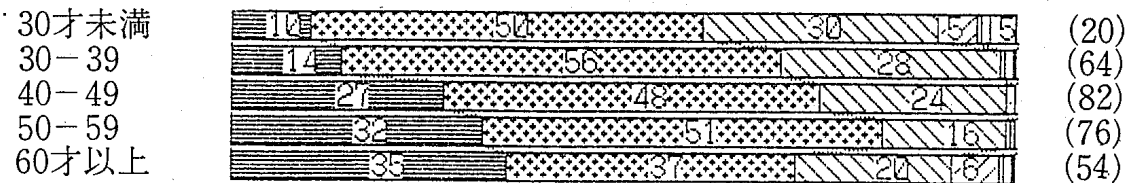
〔卵〕



〔魚貝類〕



〔年齢階層別：和歌山市〕



る。これと極めて対照的なのが和歌山市であって、毎日食べる人は31%にとどまる。つまり、和歌山市は両市に比べてパン食の定着度が著しく低い。

シアトル市と神戸市のこの一見逆にみえる現象を説明するのが、前者におけるコーンフレーク・クラッカーなどの頻繁な摂取である。シアトル市の半数近くの人々がこれらを毎日食べているのに対して、日本では過半数が稀にしか食べず、特に和歌山市においてはそうである。

## 2) 肉 類

明治以降の食生活「洋風化」の象徴的な現象のひとつは牛肉を中心とする肉食の一般化であるが、特徴的なことはそれが「ステーキ」にみられるような本来の西欧スタイルの料理としてではなく、「米食型食生活」の一環として「簡易洋食」を含む独自の和風料理という形で定着してきたことである。そこでは、薄さと細かさに特徴づけられた、いわばこま切れ型の調理方式が支配的となり、少量の肉を様々な形で頻繁に摂取するというスタイルが一般化した。

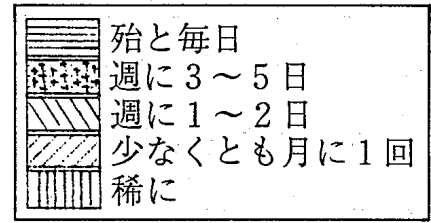
図9は、肉類（卵を含む）の摂取状況をみたものであるが、鶏肉を除けばいずれも日本の方が頻繁に食べていることがわかる。牛肉では、和歌山市が神戸市に比べてもそうした傾向が強くなっているが、これは上述の在来型調理法の強さを示すものであろう。日本における豚肉のアメリカ・シアトル市に比べての摂取頻度の高さは、価格的要因によるところが大きいと思われる。

一方、日本の特徴を明白に示しているのが魚貝類の摂取頻度の高さである。シアトル市は、アメリカの中では摂取頻度の高い地域のひとつといえるが、それでも日本との格差は大きい。和歌山市は、神戸市に比べてもさらに高い値を示している。とはいえ、年齢階層別にみると、若年層の「魚ばなれ」も着実に進行していることを注目しておかねばならない。

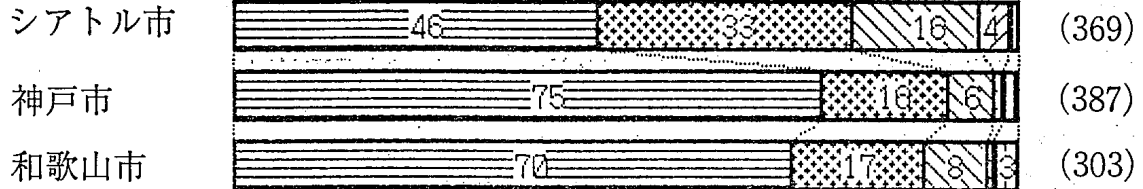
## 3) 野菜・果物

野菜の摂取における基本的な特徴は、生鮮野菜では日本が、冷凍・缶詰野菜ではアメリカの頻度が高いことである（図10）。これが前述の買物頻度の日米差と関連した現象であることはいうまでもない。また、和歌山市と神戸市を比較

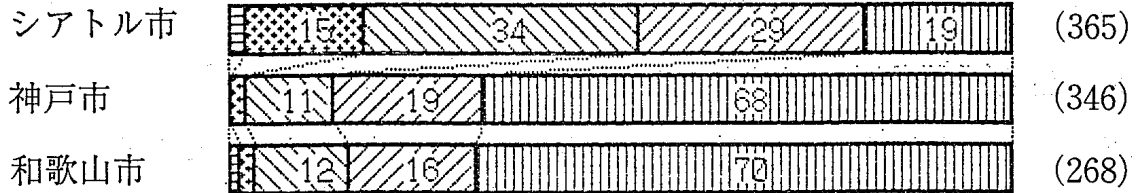
図10 野菜・果物の摂取頻度



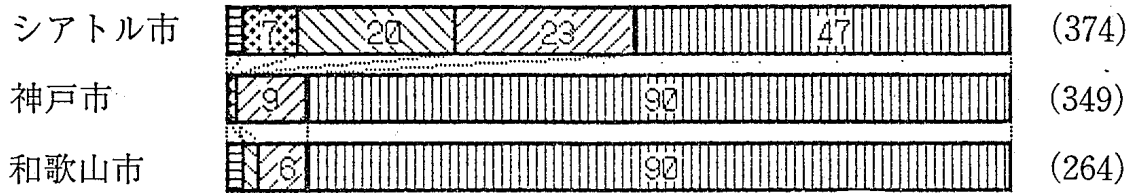
〔生鮮野菜〕



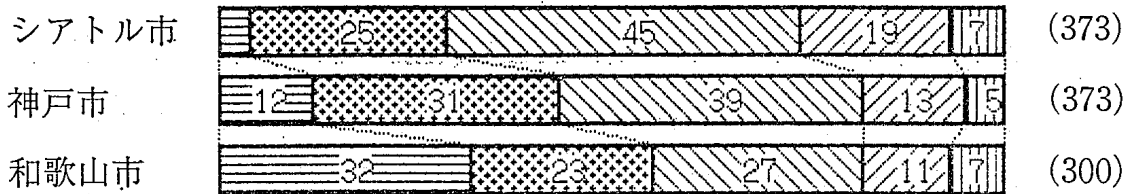
〔冷凍野菜〕



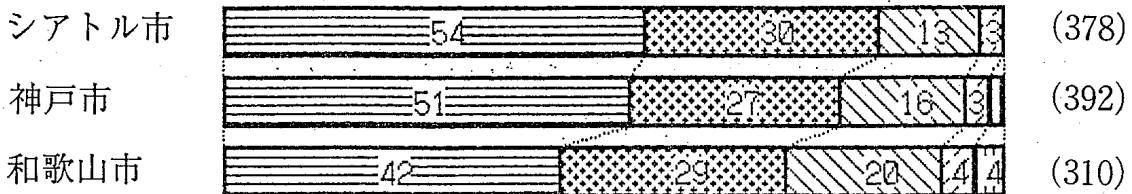
〔缶詰野菜〕



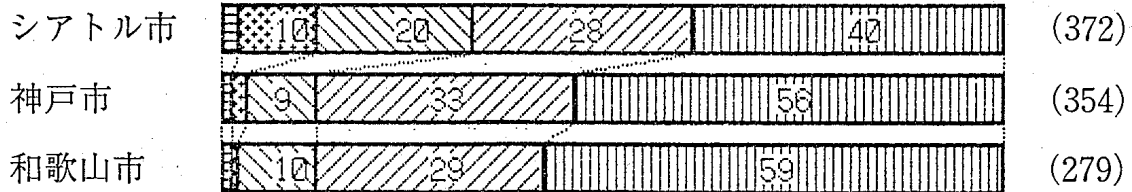
〔いも類〕



〔果物 (生)〕



〔果物 (缶詰)〕

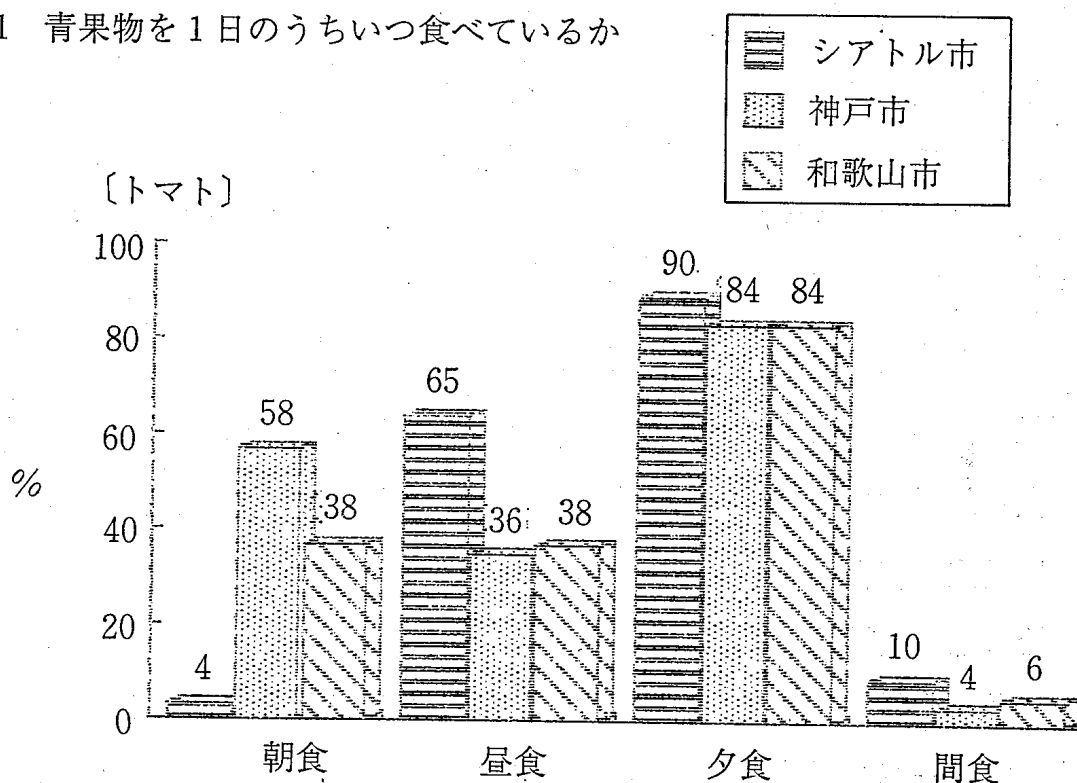


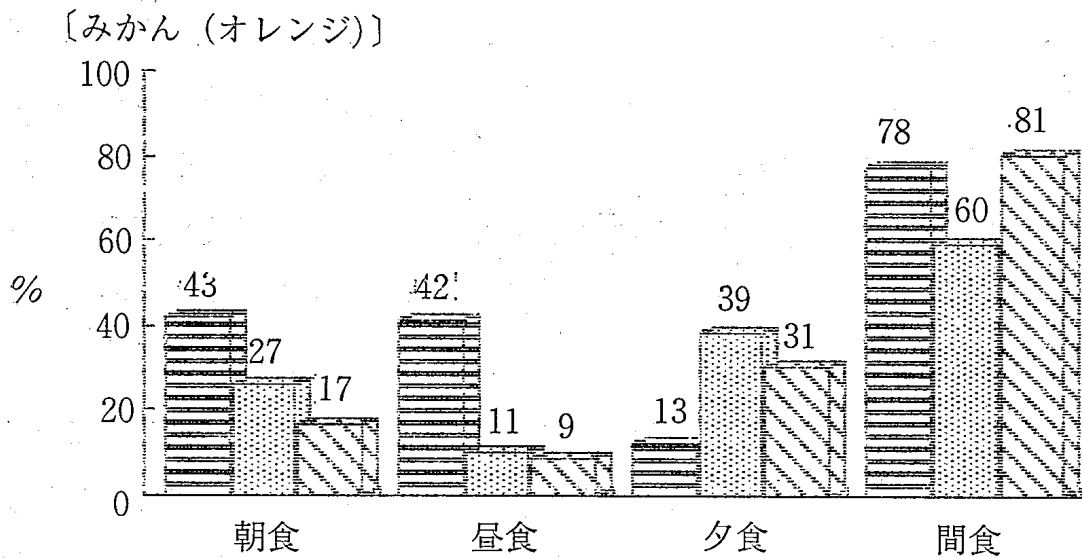
すると、前者の方が低い。しかし、根菜類を代表するものとしていも類をみてみると、まったく逆に和歌山市での摂取頻度が高くなっている。これは、和歌山市民が神戸市民に比べて、喩えていえば、「野菜サラダ」などの生食型食品よりは「米食型食生活」につきものの「煮物」などの形で野菜を摂取するというスタイルを反映したものであろう。しかし、年齢階層別にみるとやはり年齢が低いほど摂取頻度も低くなっている。

果物では、生・缶詰ともアメリカ・シアトル市民の方が頻繁に食べている。そして、特に注目されることは、和歌山市の場合、神戸市に比べてもかなり低く現れていることである。特に年齢階層別の格差がたいへん明確であり、年齢が低いほど摂取頻度が低くなっている。やや誇張していえば、若い人々を中心に「和歌山市民は果物を食べない」のである。これは、和歌山が果物の主産地であるだけに、問題を投げかける事実である。

野菜・果物をめぐる以上のような状況をさらに詳しくみるために、トマト・みかん（オレンジ）を取り上げ、それぞれ1日のうちいつ食べているかをみておこう（図11）。

図11 青果物を1日のうちいつ食べているか





まず、トマトの摂取状況をみると、夕食にはいずれの地域でも高い数値がみられるが、「日本＝朝食」・「アメリカ・シアトル市＝昼食」というパターンがみられる。トマトの場合はもとより、アメリカでは一般的に朝食に野菜を食べない。また、「日本＝朝食」とはいうものの、和歌山市民は神戸市民に比べて朝食に野菜を食べない人が多い。

みかん (オレンジ) の場合は、朝食・昼食ともシアトル市の比率が高く、夕食では神戸市が、間食では和歌山市が最高値を示している。つまり、和歌山市民のみかん摂取の特徴は概して「間食として食べるが食事としては食べない」という点にある。これは、果物一般を野菜とそれほど区別せず、それを食事の不可欠な構成要素とみなす傾向の強いアメリカ型食生活との著しい差をなしている。

これらの背景には、既に述べてきたような在来型食生活が強くパン食の定着度が低いという和歌山市の特徴があると考えてよいが、それが野菜や果物の低度消費を結果する限りでは、生産県における食生活の在り方としてひとつの重要な問題点の存在を示すものとなっている。

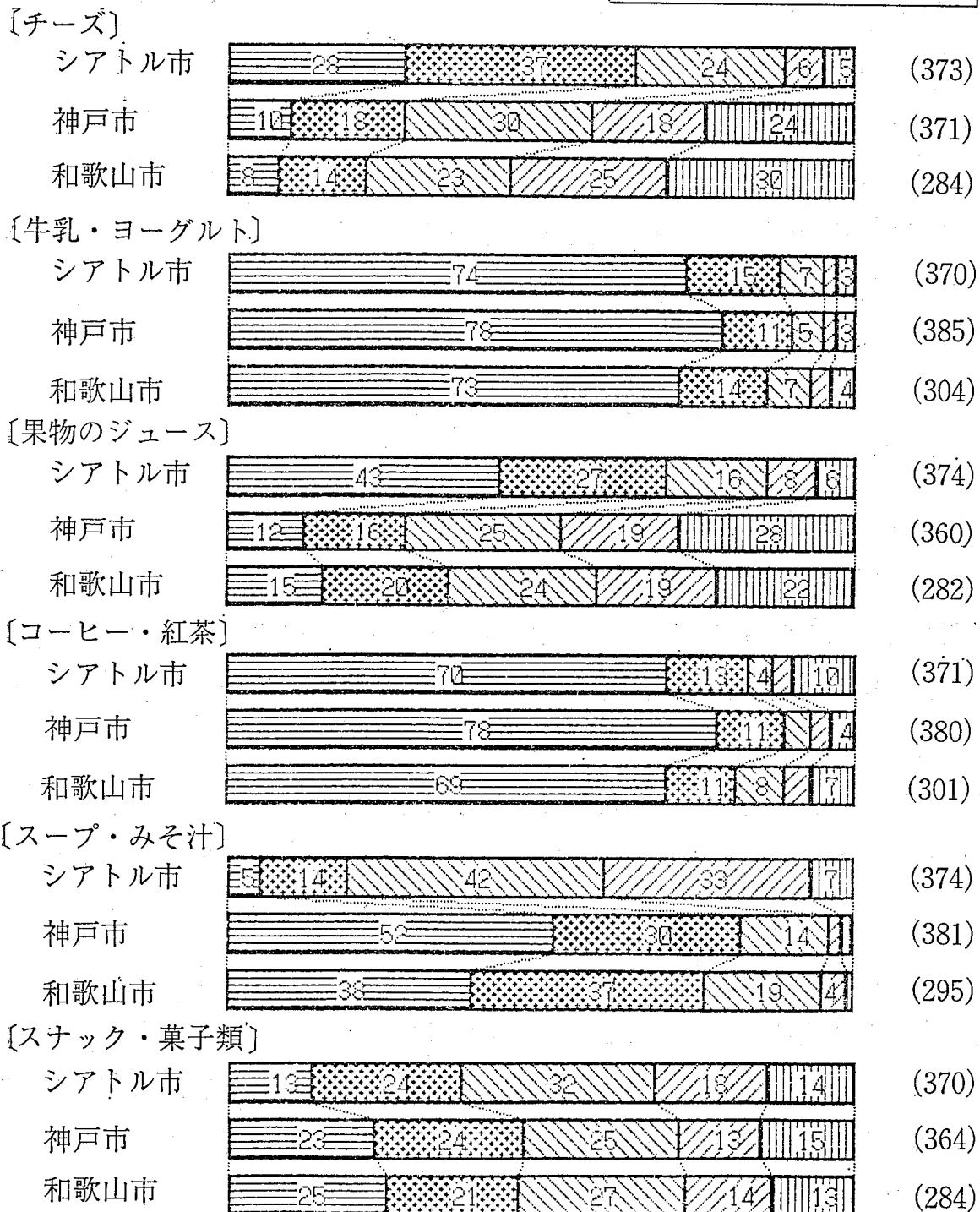
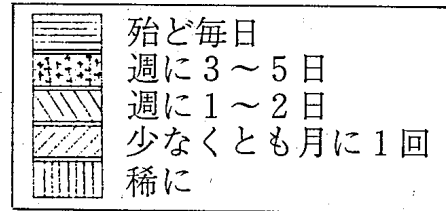
#### 4) その他の食料品

その他の食料品の中で、地域性を示すいくつかの品目についてみたのが図12である。チーズや果物のジュースではアメリカにおいて、スナック・菓子類、



スープ・みそ汁、酒類では日本において、それぞれ相対的に高い摂取頻度をみることができる。

図12 その他の食品摂取頻度



〔酒類〕

シアトル市	6	19	21	16	37	(363)
神戸市	51	14	10	8	17	(375)
和歌山市	53	13	10	6	18	(289)

以上、アンケート調査のデータから和歌山市民の食生活実態をかいま見てきたわけであるが、結果はまさに予測どおり在来的な「米食型食生活」の広範な存在を裏付けるものといえよう。しかし、いくつかのデータが示していたように、そうした食生活パターンも若い世代からしだいに崩れつつあるのが現状であるし、簡便化志向の強さにみられるように、「主婦」の自給的労働及びそれに基づく家族生活に基礎をおいたかつての「米食型食生活」というものがしだいに希薄化しつつあることも事実である。

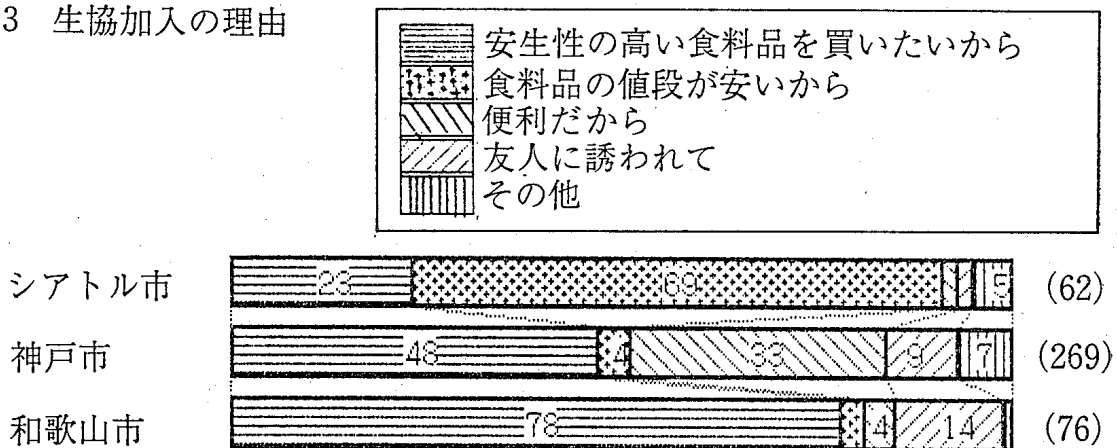
## 5. 食料品の安全性に対する意識

### 1) 生協加入理由にみる安全性意識

食料品の安全性の問題は、食生活疎外のもっとも主要な問題のひとつであり、したがってまたこの間の我が国の消費者運動も、もっぱらこの点を軸点として展開してきたといっても過言ではない。アンケート調査結果によれば、和歌山市で25.4%（無回答を除けば28.1%）、神戸市で67.1%（同様に71.4%）、シアトル市で18.8%（同様に23.5%）の人が、こうした消費者運動の中心部隊である生活協同組合（生協）に加入していると回答している。

図13は、これらの人々が生協に加入した理由をみたものである。まず日米間の違いとしていえることは、日本ではその最大の要因が「安全性が高い」ということにあるが、アメリカ・シアトル市では「食料品が低価格」という項目が選択されていることである。近年アメリカでも食料品の安全性に対する関心は徐々に高まりつつあり、さまざまな消費者運動が起りつつあるが、現状では日本の消費者の方が安全性問題に対してはるかに高い関心を示している。同時に、和歌山市と神戸市との対比では、前者で「安全性が高い」という項目に78%が

図13 生協加入の理由



集中しているのに対し、後者ではそれは48%にとどまり、「便利」という項目に33%の人々が賛同していることが注目される。これは神戸市の場合、灘神戸生協によって生協組織が市内全域に網の目のようにはりめぐらされ、しかも100近い店舗を擁するという高密度な店舗立地によるものである。要するに、神戸市に比べて生協店舗のほとんどない和歌山市では、市民はもっぱら安全性の観点から生協に加入しているということである。

## 2) 加工食品の安全性

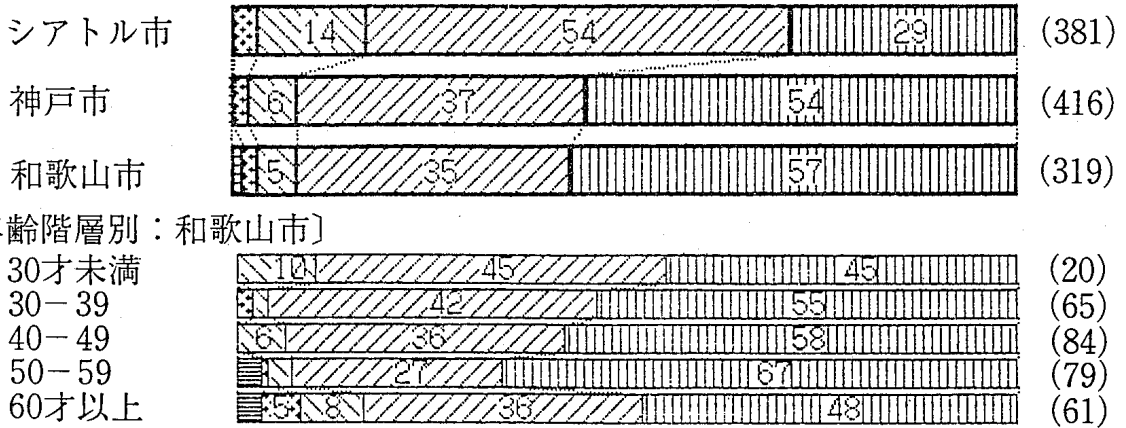
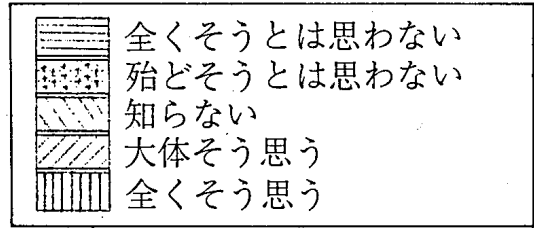
こうした意識を持って消費者が生協へ加入するのは、当然市民の間に食料品に人体に有害な添加物や農薬が使われている意識があるからである。まず、加工食品についてみよう。

「ほとんどの加工食品には添加物が多すぎる」とした図14の設問についてみると、「まったくそう思う」と答えた人々が日本では過半数を占めているし（和歌山市の方が神戸市よりもさらに高い）、「だいたいそう思う」まで含めると9割を越える人々が、同調している。年齢階層別にみると、60才以上の高齢層を除いて年齢が高くなるほど同意する率が高くなっている。つまり、既示した加工食品の利用頻度（若年層・高齢層で高い）との関係でいうならば、「加工食品をよく利用する人は添加物の安全性に対する心配が希薄」、あるいは「そうであるから加工食品をよく利用する」といった傾向を指摘することができる。

ともあれ、かなりの人々は加工食品を有害と感じていることになるが、それ

図14 加工食品の安全性について

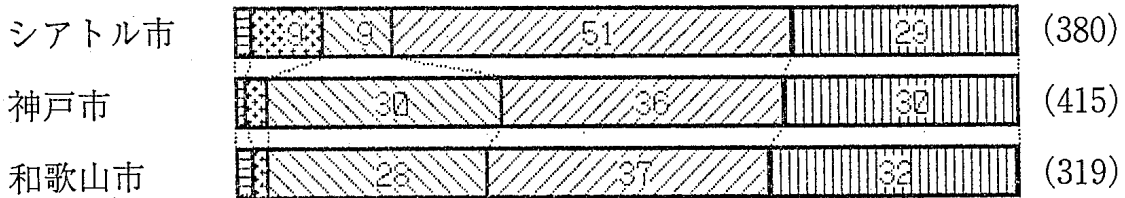
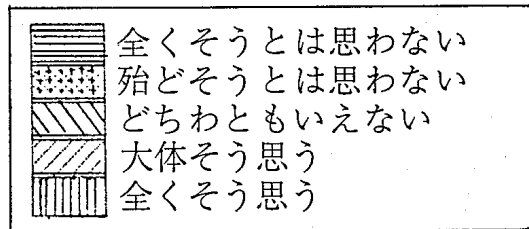
ほとんどの加工食品には  
添加物が多すぎる



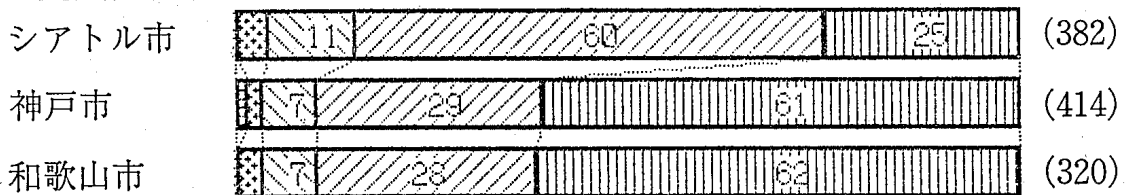
ではどういう対応をすればよいかということを知ったのが図15である。国別にみると、アメリカ人が「加工食品はなるべく買わない方がよい」と「添加物のない加工食品を買った方がよい」のいずれの質問についても同様の反応を示しているのに対し、日本人は後者の方にはるかに高い同意反応が出ている。

図15 加工食品への対応

加工食品はなるべく  
買わない方がよい



添加物のない加工食品を  
買った方がよい

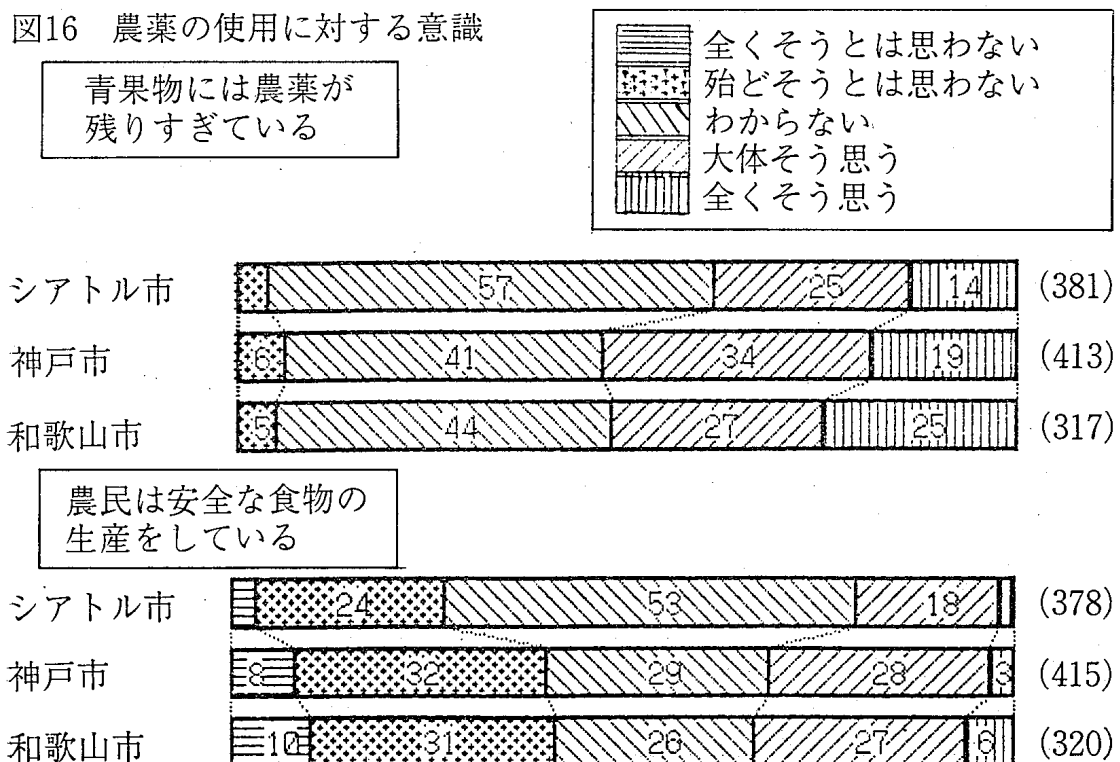


1970年代後半以降、特に日本において、食品の安全性を求める消費者運動及び生協組織の急速な成長があったという事実は、上述のような日本の食生活構造の上にきわめて急速なその社会化が展開したことで、そしてそれが輸入食品の増加を含めて市場原理に基づく商品化として進展するがゆえに、「安全性」の破壊という形で食生活疎外を顕在化せしめたこと、の必然的な社会的表現であった。こうした事情が、これらの回答に反映したものといえる。

3) 農薬の使用に対する意識

図16は、農薬の使用・残留に関する意識をみたものである。「青果物には農薬が残りすぎている」という項目に対しても、加工食品における添加物問題と同様の傾向がここでもみられるが、日米ともに、特に日本で同調者が減少した結果、日米間格差は小さくなっている。かわって、「わからない」と答えた人々が日本で40%余り、アメリカでは過半数を占めている。この事実は、添加物——例えば着色剤や防腐剤——が、現物や表示をみて比較的自らの目で確認可能であるのに比べて、農薬の多くが何がどの程度使用されているのか直接確認できないことなどの事情によるものと考えられる。なお、和歌山市と神戸市を

図16 農薬の使用に対する意識



比較すると、「まったくそう思う」とする意志表示の強い部分が、前者においてかなり明確に出ていることが興味深い。さきほどの食品添加物の問題とも併せて、和歌山市民は神戸市民に比べて安全性問題に対してヨリ敏感であるという結果が導き出せる。

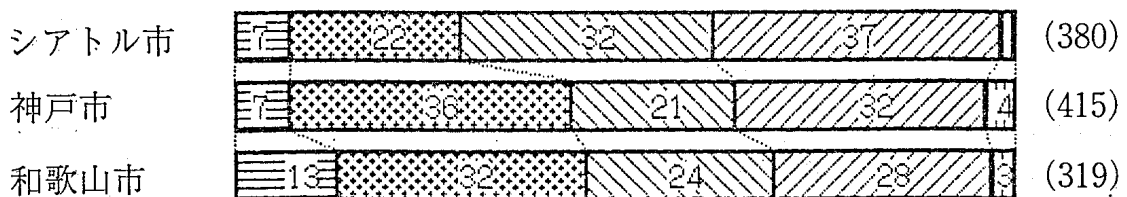
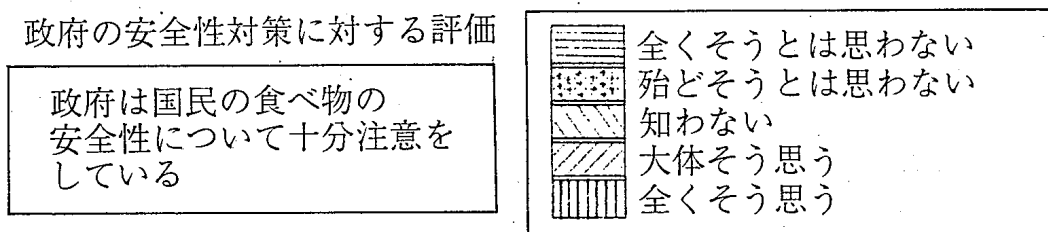
農薬問題を生産者の姿勢に対する評価という側面からみるならば、「農民は安全な食物の生産をしている」という項目に対する評価が賛否分裂している。地域別では、アメリカより日本において両極分化傾向が明確であり、日本では否定的評価が優勢ながら和歌山市においてヨリそうした傾向が顕著である。生産者に対するこの面での評価は、和歌山では生産者「不信」に傾斜しながらも、「不信」派と「信頼」派の賛否両派に大きく二分されているわけである。

ところで、政府の安全性対策に対する評価についても、消費者の態度は二分されているが、日本では否定的評価を下している人々が40%を越え優勢である。図17は、「政府は国民の食べ物の安全性について十分注意をしている」という項目に対する消費者の態度を集計したものであるが、特に和歌山市では「まったくそうとは思わない」と強い否定を表明する人々が13%を占めることが注目されよう。これまでみてきた安全性に対する強い懸念が、政府不信として現れているのである。

## 6. ま と め

「米食型食生活」がこの国において定着をみるのは、そう遠い時期のことで

図17 政府の安全性対策に対する評価



はない。明治の終わりから大正期における展開を前史としたその本格的な発展・確立は、やっとな戦後の高度成長期のことであった。そして、それを支えたものが戦後「核家族」における「専業主婦」の存在であり、また流通部面での小売商店・小売市場の発展であった。<sup>(7)</sup>こうした「米食型食生活」の基礎条件は、その後急速に崩壊・解体を始める。「多様化」「グルメ」「飽食」から「孤食」「添加物」といった言葉で象徴される現代の食生活は、その基礎条件の変化とともに進行する「米食型食生活」の解体として現象しているのである。

この現代の食生活を基本的に特徴づけるものは、なによりも商品的形態をとった食生活の社会化であり、その主要な担い手としての大流通・加工資本の支配の発展であり、その結果としての消費者と生産者（農民）の分断の固定化である。

こうした変化は、やはり近年になって特に急速に現れている経済の「国際化」によって、具体的には農産物輸入自由化に伴う食品輸入の急増によって加速されている。自給率の著しい低下は、消費者に來たるべき「食糧危機」への不安感と食品の安全性に対する懸念を増幅させただけでなく、国内農産物市場の縮小による農業危機を激化させることによって生産者＝農民に多大な打撃を与えている。

すでに基礎条件が変化し、「米食型食生活」がかつての形で存続しえない現在の段階において、食生活変貌の客観的可能性は基本的には敵対的な次の二様のルートで存在している。第1は、農産物輸入自由化の一層の進行と流通・加工資本の支配深化の下で、現在支配的形態となっているところの「米食型食生活」のなしくずし的解体に至るルートである。第2は、消費者と生産者の組織的連携を強化し、そのイニシアティブによる食生活疎外の克服と適正な輸入規制の下での日本農業の発展とを同時的に実現するルートである。食生活の形態からいえば、「米食型食生活」の基礎の上に新たな段階でのその再生を、生産者の協力のもとに消費者自身が主役となって創造するルートである。生協と農

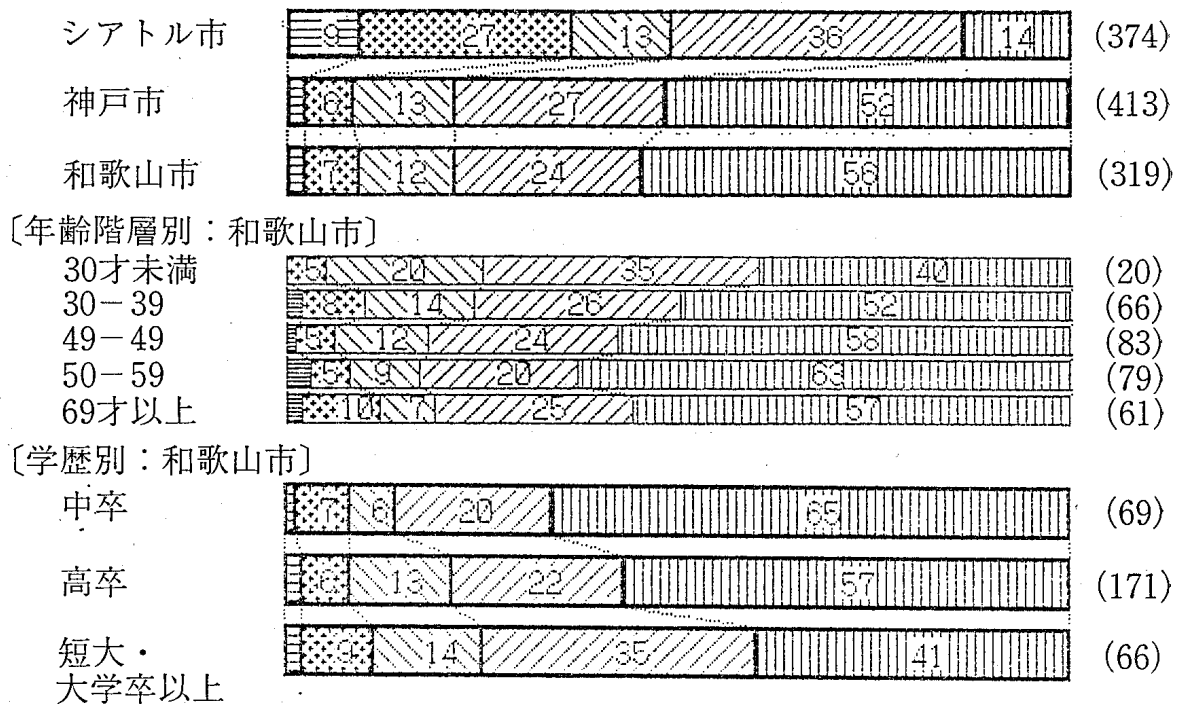
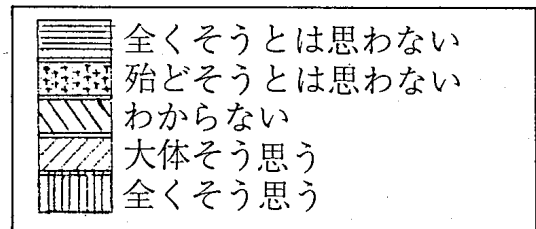
(7) 吉田忠，前掲書。

協との直接的提携＝「産直」を介した両者の結びつきの発展は、これまでのところその典型的な現れとなっている。

事態をこのまま放置するならば、第1のルートの上での食生活変貌がますます優勢となっていくことは不可避である。しかし、一方での消費者における様々な食生活疎外の発展と他方での農業危機の激化は、双方の危機打開に向けた消費者・生産者の連携を要請する客観的基盤をも同時に発展させざるを得ないであろう。実際、「質のよい食品を供給するために政府は日本の農業を守るべきである」という項目に80%もの消費者が賛成している事実<sup>(8)</sup>（図18）が、この

図18 国内農業の保護について

質のよい食品を供給するために政府は自国の農業を守るべきである



(8) 農業保護に対する意識についても、図18に見られるようになりに明確な年齢階層性が存在している。すなわち、若年層ほど農業保護に肯定的な意見は相対的に少なくなる。ここでは、やや違った角度から最終学歴別のデータを示しておいたが、学歴が高いほど農業保護に批判的なトーンを強めている。前掲の総理府アンケート調査結果によれば、「安い食料については輸入する方がよい」という意見が「学生」や「管理・専門技術・事務職」などで強く出ているが、この点に符合する傾向といえよう。



ことを物語っている。消費者は、農薬汚染を告発しながらもなお日本農業の発展を願っているのであり、生産者はこれに応えていかなければならない。

和歌山市民の食生活の観点から問題を捉えるならば、注目すべきは、「米食型食生活」がなお広範に生き続けているという事実である。これは一面からいえば「遅れ」であるが、他面からいえば継承すべき食生活文化の破壊がそれだけ弱いということの意味している。しかし、既に指摘したように、若年層に先導される形で第1のルートは着実に浸透してきているし、みかんの生産県でありながらみかん消費が少ないことに象徴されるような「生産と消費のギャップ」にも注目しないわけにはい<sup>(9)</sup>かない。地域の生産・流通構造に根ざした地域の食生活様式の創造、及び後者に誘導された前者の主体的再編が問題の核心である。いわば「和歌山型食生活」の主体的創造を目指した消費者と生産者の連携——この発展如何がこうした諸問題の解決と第2のルートの発展を保障することになるであろう。

---

(9) 問題は、和歌山県の商業的農業の発展が、次のような研究報告に述べられているように、地元供給機能の縮小を伴ってきた点である。

「和歌山県はみかんの先進地であると同時に、各地の立地特性をいかした商品生産農業が多彩に展開している農業県である。しかし、とりわけ京阪神地域への供給基地としての機能側面を強めており、域内供給機能はしだいに縮小される傾向にある。また一方では、県外市場、とりわけ大阪市中心卸売市場からの転送が構造的に定着して、その域内供給にしめる役割は次第に大きくなり、地元卸売市場においては、集散拠点市場の末端配給機構としての機能が強化されつつある。」(大阪府立大学農学部農業政策学研究室『農政経済研究』第13集、1981年)。

同報告では、こうした問題について実態調査に基づく詳細な分析が行われている。

(参考資料)

## 『日米食料消費生活アンケート調査』

( )内は和歌山市の単純集計結果について、無回答を含む323名を合計とする構成比  
 [ ]内は無回答の構成比 (いずれも単位は%)

まず、はじめにお宅の食料品の買い方と調理についてあなたの考え方を伺います。

質問-1 次の項目についてどう思いますか。

	○で囲んで下さい。					まったく そうとは 思わない
	まったく そう思う	だいたい そう思う	どちらとも いえない	ほとんど そうとは 思わない		
A. 食料品の 買物は 楽しい。	(22.6)	(46.7)	(22.3)	(5.9)	(0.9)	[1.5]
B. 料理は 楽しい	(17.6)	(48.3)	(23.8)	(6.8)	(1.9)	[1.5]
C. 高くても質の よい食品を 買った方がよい	(37.8)	(35.9)	(21.1)	(2.5)	(0.9)	[1.9]
D. 冷凍食品よりは 生鮮食品を 買った方がよい	(51.7)	(30.0)	(15.2)	(1.5)	(0.6)	[0.9]
E. はじめて見る珍 しい食べ物を 買うのは楽しい	(17.3)	(22.9)	(37.8)	(15.8)	(5.0)	[1.2]
F. はじめての料理 を作ってみるの は楽しい	(32.5)	(39.0)	(19.2)	(4.6)	(3.4)	[1.2]
G. 食事の盛り付け は味と同じよう に大切です	(62.5)	(32.8)	(2.2)	(0.6)	(0.3)	[1.5]
H. 加工食品は なるべく 買わない 方がよい	(31.6)	(36.2)	(27.6)	(1.5)	(1.9)	[1.2]
I. 調理のし安さを 考えて買物を する	(19.5)	(46.1)	(21.7)	(9.0)	(2.5)	[1.2]
J. 添加物のない 加工食品を 買った方がよい	(61.0)	(27.6)	(7.1)	(3.1)	(0.3)	[0.9]
K. 無農薬で生産さ れた青果物は他 の青果物と区別 した方がよい	(52.3)	(26.0)	(15.2)	(4.6)	(0.6)	[1.2]

次に、食料品の質についてのあなたの考え方をお伺いします。

質問-2 あなたが買物をするとき、次の項目についてどう思いますか。

	○で囲んで下さい。					合計
	まったく そう思う	だいたい そう思う	わからない	ほとんど そうとは 思わない	まったく そうとは 思わない	
A. 包装がよい ものは質もよい	(4.0)	(11.8)	(30.3)	(32.8)	(19.8)	1.2
B. 農民は安全な 食物の生産 をしている	(6.2)	(26.6)	(25.4)	(30.7)	(10.2)	0.9
C. 国産食品は 輸入食品より 質がよい	(16.1)	(32.2)	(32.8)	(13.3)	(4.0)	1.5
D. 農民は低農薬で 生産をした 方がよい	(62.2)	(26.3)	(7.1)	(1.5)	(1.5)	1.2
E. 質のよい食品を 供給するために 政府は日本の 農業を守るべき である	(55.4)	(23.8)	(11.5)	(6.5)	(1.5)	1.3
F. ほとんどの加工 食品には添加物 が多すぎる	(56.7)	(34.7)	(4.6)	(1.5)	(1.2)	1.2
G. 青果物には 農薬が残り すぎている	(24.1)	(26.3)	(43.0)	(4.6)	(-)	1.9
H. 政府は国民の 食べ物の安全性 について十分 注意をしている	(3.4)	(27.2)	(24.1)	(31.3)	(12.7)	1.2
I. 加工食品業者と 市場関係者は国民 の食べ物の安全 性について十分 注意をしている	(2.5)	(24.5)	(25.7)	(31.9)	(13.6)	1.9

次に、お宅での調理方法についてお伺いします。 次の項目についてあなたのお考えにいちばん近い番号に○印を付けて下さい。

質問-3 家族そろって家で夕食をとるとき、食事のしたくにとどのくらい時間がかかりますか。

1. あまり家族と一緒にには食べない (1.9)
2. 20分未満 (2.5)
3. 30分未満 (11.5)
4. 40分未満 (21.4)
5. 50分未満 (26.0)
6. 1時間から2時間くらい (35.0)
7. 2時間以上 (0.6)

1.2

質問-4 家族そろって家で夕食をとるとき、食事にどのくらい時間がかかりますか。

1. あまり家族と一緒にには食べない (2.5)
2. 20分未満 (6.5)
3. 30分未満 (33.7)
4. 40分未満 (22.0)
5. 50分未満 (19.5)
6. 1時間から2時間くらい (13.6)
7. 2時間以上 (0.6)

1.5

質問-5 あなたは、夕食のために売っているそうざいや出前など調理済みの物を、家でどのくらい利用していますか。

- |              |            |
|--------------|------------|
| 1. 全く使わない    | ( 9.9)     |
| 2. 年に1回か2回   | (11.8)     |
| 3. 年に1回か2回以上 | (18.0)     |
| 4. 月に1回以上    | (40.9)     |
| 5. 週に1回以上    | (15.8)     |
| 6. ほとんど毎日    | ( 1.5)     |
|              | <u>2.2</u> |

質問-6 あなたは、夕食のためにレトルト食品や冷凍食品など半調理済みの物をどのくらい利用していますか。

- |              |            |
|--------------|------------|
| 1. 全く使わない    | (13.3)     |
| 2. 年に1回か2回   | (10.5)     |
| 3. 年に1回か2回以上 | (14.2)     |
| 4. 月に1回以上    | (37.2)     |
| 5. 週に1回以上    | (22.6)     |
| 6. ほとんど毎日    | ( 1.2)     |
|              | <u>0.9</u> |

質問-7 お宅では、この一年間に食事のバラエティは変化していますか。

- |            |            |
|------------|------------|
| 1. 増えている   | (26.3)     |
| 2. 変わっていない | (64.7)     |
| 3. 減っている   | ( 1.2)     |
| 4. わからない   | ( 6.5)     |
|            | <u>1.2</u> |

質問-8 料理と食事の役割・課題は何だと思えますか。  
重要と思う項目を3つ選んで口の中に記入して下さい。

- |        |                          |                            |             |
|--------|--------------------------|----------------------------|-------------|
|        |                          |                            | (「最も重要」の比率) |
| 最も重要   | <input type="checkbox"/> | 1. 空腹を満たすこと                | ( 5.0)      |
|        | <input type="checkbox"/> | 2. できるだけ安い食事を作ること          | ( 1.2)      |
|        | <input type="checkbox"/> | 3. 最も味のよい食事を作ること           | ( 9.6)      |
|        | <input type="checkbox"/> | 4. 最も見た目に美しい食事を作ること        | ( - )       |
| 2番目に重要 | <input type="checkbox"/> | 5. 調理に要する時間を最小限にすること       | ( 0.9)      |
|        | <input type="checkbox"/> | 6. 生きてゆくために必要              | (15.5)      |
|        | <input type="checkbox"/> | 7. 最も好きな食品を食べること           | ( 0.3)      |
| 3番目に重要 | <input type="checkbox"/> | 8. 値段にかかわらず、最も質の高い食品を食べること | ( 1.2)      |
|        | <input type="checkbox"/> | 9. 友人や家族との団らんを楽しむこと        | ( 4.3)      |
|        | <input type="checkbox"/> | 10. 健康を保つこと、バランスのとれた食事     | (60.1)      |
|        | <input type="checkbox"/> | 11. その他( )                 | ( 0.3)      |
|        |                          |                            | <u>1.5</u>  |

質問-9 青果物の品質はこの一年のうちに変化していると思えますか。

- |             |            |
|-------------|------------|
| 1. 良くなっている  | (16.7)     |
| 2. かわらない    | (58.8)     |
| 3. わるくなっている | ( 4.6)     |
| 4. わからない    | (18.3)     |
|             | <u>1.5</u> |

質問-10 加工食品の品質はこの一年のうちに変化していると思えますか。

- |             |            |
|-------------|------------|
| 1. 良くなっている  | (23.5)     |
| 2. かわらない    | (41.8)     |
| 3. わるくなっている | ( 4.3)     |
| 4. わからない    | (28.5)     |
|             | <u>1.9</u> |

質問-11 あなたは、どの程度何かを参考にしながら料理をしますか。

注：この質問の各項目は次のことを意味します。

毎日=週6日以上  
 3-5/週=週3~5日  
 毎週=週1~2日  
 毎月=少なくとも月1回毎週ではない  
 稀に=月に1回もないか全く使わない

各質問に対して1つだけに○印を付けてください

	毎日	3~5/週	毎週	毎月	稀に	
A. テレビの料理番組	(4.0)	(4.3)	(15.2)	(20.7)	(42.4)	13.3
B. 新聞の料理記事	(4.6)	(1.9)	(9.9)	(17.3)	(46.4)	19.8
C. 料理雑誌	(0.9)	(1.5)	(12.1)	(26.3)	(38.7)	20.4
D. 料理の本	(0.9)	(3.1)	(12.7)	(27.6)	(34.7)	21.1
E. 料理教室, または講習会	(-)	(0.3)	(1.2)	(2.5)	(69.3)	26.6
F. 食堂, 食品店で得た知識	(0.6)	(1.9)	(6.2)	(21.4)	(49.2)	20.7
G. パッケージの作りかたを見て	(0.6)	(1.5)	(5.3)	(19.5)	(48.0)	25.1
H. 身内から教えてもらったこと	(2.5)	(5.9)	(12.7)	(25.1)	(35.3)	18.6
I. 友達の話	(1.2)	(4.0)	(10.5)	(23.5)	(40.6)	20.1
J. その他( )	(略)					

次に、お宅では、どんな食べ物を好んで召し上がっているかについてお伺いします。  
 質問12から14までの食品で家族の全体の消費についておこたえください。

質問-12 お宅では、下にあげた食べ物をそれぞれどのくらい食べていますか。

毎日=週6日以上  
 3-5/週=週3~5日  
 毎週=週1~2日  
 毎月=少なくとも月1回毎週ではない  
 稀に=月に1回もないか全く使わない

各質問に対して1つだけに○印を付けてください

	毎日	3~5/週	毎週	毎月	稀に	
A. 果物(生)	(40.6)	(28.2)	(19.5)	(4.0)	(3.7)	4.0
B. 果物(カン詰め)	(0.9)	(1.2)	(8.4)	(25.1)	(50.8)	13.6
C. 生鮮野菜	(65.9)	(15.8)	(7.7)	(1.2)	(3.1)	6.2
D. 冷凍野菜	(0.6)	(1.5)	(9.6)	(13.0)	(58.2)	17.0
E. カン詰め野菜	(1.2)	(0.3)	(1.5)	(5.3)	(73.4)	18.3
F. 米	(92.6)	(1.5)	(1.2)	(0.6)	(0.6)	3.4
H. パン	(29.7)	(21.7)	(24.8)	(10.5)	(6.2)	7.1
G. いも類	(27.9)	(21.4)	(26.0)	(8.4)	(6.5)	9.9
I. コーンフレーク, クラッカーなど	(2.2)	(3.1)	(9.0)	(16.4)	(52.9)	16.4
J. 魚, 貝など	(24.1)	(45.2)	(20.7)	(1.9)	(1.2)	6.8
K. 牛肉	(6.2)	(46.1)	(31.6)	(6.5)	(2.2)	7.4
L. 豚肉	(1.9)	(27.2)	(42.7)	(12.7)	(7.4)	8.0
M. 鳥肉	(0.9)	(28.2)	(43.0)	(13.6)	(5.6)	8.7
N. 果物のジュース	(12.7)	(17.0)	(21.4)	(16.7)	(19.5)	12.7
O. コーヒー, 紅茶	(64.4)	(10.5)	(7.4)	(4.0)	(6.8)	6.8
P. 牛乳, ヨーグルト	(68.7)	(13.0)	(6.5)	(2.5)	(3.4)	5.9
Q. チーズ	(6.8)	(12.7)	(20.4)	(21.7)	(26.3)	12.1
R. 卵	(54.2)	(28.5)	(9.9)	(1.9)	(0.9)	4.6
S. めん類	(10.5)	(26.6)	(43.0)	(10.8)	(1.9)	7.1
T. スナック, 菓子類	(22.0)	(18.6)	(23.8)	(12.1)	(11.5)	12.1
U. ケーキ, パイ類	(1.9)	(6.2)	(22.3)	(39.3)	(16.1)	14.2
V. スープ, みそ汁	(34.4)	(34.1)	(17.6)	(4.0)	(1.2)	8.7
W. 酒類	(47.1)	(12.1)	(9.0)	(5.3)	(16.1)	10.5

質問-13 お宅では、下にあげた青果物をそれぞれの季節に買いますか。

いくつでも○印を付けてください

	春	夏	秋	冬
A. みかん, およびオレンジ	(32.5)	(30.3)	(50.3)	(86.5)
B. りんご	(42.1)	(34.1)	(63.8)	(61.0)
C. さくらんぼ	(25.4)	(28.8)	(3.1)	(0.6)
D. もも	(6.5)	(82.4)	(7.7)	(1.9)
E. バナナ	(67.2)	(68.7)	(67.8)	(63.8)
F. キャベツ	(88.9)	(85.4)	(84.2)	(83.3)
G. レタス	(77.4)	(79.9)	(70.3)	(67.8)
H. トマト	(62.2)	(90.1)	(59.4)	(49.2)
I. アスパラガス	(49.5)	(44.9)	(26.0)	(23.2)
J. にんじん	(92.3)	(84.8)	(87.3)	(86.7)

質問-14. お宅では、ふつう下の果物と野菜をどの食事に食べますか。

それぞれについていくつでも○印をつけてください

	朝食	昼食	夕食	食間	食べない
A. みかんおよびオレンジ	(17.3)	(9.3)	(30.7)	(80.5)	(1.9)
B. りんご	(25.7)	(8.7)	(29.4)	(69.7)	(2.8)
C. さくらんぼ	(4.3)	(3.4)	(10.2)	(39.9)	(29.7)
D. もも	(8.0)	(8.0)	(18.3)	(75.5)	(2.5)
E. ぶどう	(10.5)	(10.2)	(20.1)	(79.6)	(1.5)
F. バナナ	(25.4)	(8.4)	(10.2)	(70.9)	(6.8)
G. キャベツ	(34.1)	(43.7)	(88.9)	(2.8)	(-)
H. レタス	(40.6)	(38.1)	(83.9)	(1.5)	(1.5)
I. トマト	(38.4)	(38.1)	(84.2)	(5.9)	(1.5)
J. アスパラガス	(12.1)	(21.1)	(64.7)	(2.5)	(15.2)
K. にんじん	(16.7)	(40.9)	(87.6)	(1.2)	(0.6)
L. 大根類	(22.9)	(31.6)	(89.8)	(0.9)	(-)
M. いも類	(19.8)	(36.5)	(80.8)	(15.8)	(0.6)
N. ほうれん草	(31.0)	(49.2)	(89.5)	(1.5)	(-)
O. とうもろこし	(7.4)	(13.0)	(31.0)	(45.2)	(13.6)
P. きのこと類	(13.9)	(25.7)	(87.0)	(1.5)	(3.1)
Q. きぬさや	(10.5)	(32.8)	(84.2)	(1.9)	(1.2)
R. 豆類	(31.0)	(47.7)	(87.3)	(5.6)	(0.3)

次に、お宅の食品の買い方についてお伺います。

質問-15 あなたは、週に何回くらい食料品の買物にでかけますか。

(配達や共同購入, スーパーや小売店なども含めて)

1. ほとんど毎日 (52.0)
2. 週に4~5回くらい (23.8)
3. 週に2~3回くらい (17.6)
4. 週に1回くらい (5.0)

1.5

質問-16. お宅では、月々の食費の何割くらいを下の店や配達で使いますか。

	買わない	0-24%	25-49%	50-74%	75-100%	
A. 生協の店, 共同購入	(44.0)	(16.7)	(6.5)	(3.7)	(1.9)	27.2
B. 一般の小売店	(20.1)	(34.7)	(9.3)	(7.7)	(3.7)	24.5
C. コンビニエンスストア	(42.4)	(13.6)	(4.0)	(2.2)	(0.3)	37.5
D. スーパーマーケット	(2.5)	(11.8)	(15.5)	(27.2)	(35.3)	7.7
E. 小売市場	(27.2)	(23.8)	(7.7)	(7.1)	(4.0)	30.0
F. 配達	(48.9)	(13.6)	(1.2)	(1.2)	(0.6)	34.4

質問-17. あなたは、食料品店を選ぶとき、下にあげた各項目を、どの程度重視していますか。

一つだけ○印をして下さい。

	大変重視 している	ある程度 重視している	あまり重視 していない	ほとんど 重視していない	
A. 値段が安い	(22.6)	(61.6)	(9.9)	(2.2)	3.7
B. 質がよい	(67.5)	(25.4)	(1.5)	(0.3)	5.3
C. 物が新鮮	(78.9)	(16.1)	(1.2)	(0.3)	3.4
D. 店が清潔	(41.5)	(48.3)	(4.0)	(-)	6.2
E. 店員が親切	(16.7)	(52.3)	(22.9)	(1.9)	6.2
F. 安売りが多い	(16.1)	(44.6)	(28.5)	(4.6)	6.2
G. 夜遅くまで 開いている	(7.4)	(22.0)	(36.5)	(26.3)	7.7
H. 店が近い	(31.9)	(43.3)	(14.9)	(4.3)	5.6

質問-18. お宅では、生協に加入なさっていますか。

1. いいえ (65.0) ——— “いいえ”と答えた人は質問-21までとばして  
下さい。

2. はい (25.4)

質問-19. “はい”と答えた人に伺います。生協から購入する食料品費は、  
世帯全体の食費の何割ぐらになりますか。

1. 10%未満	(11.5)	7. 60~69%	(5.1)
2. 10~19%	(14.1)	8. 70~79%	(7.7)
3. 20~29%	(24.4)	9. 80%以上	(3.8)
4. 30~39%	(19.2)		-
5. 40~49%	(9.0)		
6. 50~59%	(5.1)		

質問-20 “はい”と答えた人に伺います。あなたは、どのような理由から生協に加入  
なさいましたか。一番重要な理由を一つだけ選んで下さい。

1. 安全性の高い食料品を買いたいから	(72.0)
2. 食料品の値段が安いから	(2.4)
3. 便利だから	(3.7)
4. 友人に誘われて	(13.4)
5. その他 ( )	(1.2)

次に、みかん類を例にとってお宅の青果物の買い方をお伺いします。

質問-21. あなたは、みかん類を買うとき、下にあげた各項目を、どの程度重視していますか。

一つだけ○印をして下さい。

	大変重視 している	ある程度 重視している	あまり重視 していない	ほとんど 重視していない	
A. 生産地	(19.5)	(36.8)	(17.6)	(4.0)	22.0
B. 形	(4.6)	(34.7)	(33.1)	(4.0)	23.5
C. 大きさ	(2.8)	(34.1)	(36.5)	(3.7)	22.9
D. 傷のあるなし	(22.6)	(38.7)	(14.2)	(1.2)	23.2
E. 堅さ	(12.4)	(49.2)	(12.7)	(1.9)	23.8
F. 色	(24.8)	(44.6)	(7.1)	(0.9)	22.6
G. 品種	(18.6)	(40.2)	(17.0)	(1.5)	22.6
H. 値段	(18.9)	(50.5)	(8.4)	(0.9)	21.4
I. 味	(63.5)	(13.9)	(0.9)	(-)	21.7

質問-22 お宅では、この1年間に、贈り物としてみかん類を使ったことがありますか。

1. いいえ(44.9)
  2. はい(51.1)—— “はい” の場合、どなたに贈りましたか。 (略)
- 4.0

質問-23 お宅がよく買うみかん類の品種はなんですか。  
(略)

質問-24 この一年間に食べたみかん類の中で、一番おいしいと感じた品種は何でしたか。  
(略)

次に、外食以外の食費に関して伺います。質問-25から29について、それぞれ一つ選んで○印を付けて下さい。

質問-25 お宅では、月々の食費は月間世帯総収入の何%ぐらいになりますか。

1. 10%未満 (2.5)
  2. 10~19% (12.4)
  3. 20~29% (24.8)
  4. 30~39% (24.8)
  5. 40~49% (21.1)
  6. 50%以上 (9.0)
- 5.0

質問-26 お宅では、この一年間に月々の食費が月間世帯総収入に占める割合は変化していますか。

1. 増えている (31.6)
  2. 変わっていない (55.1)
  3. 減っている (2.8)
  4. わからない (8.0)
- 2.5

質問-27 農業や添加物を含まないことが保証された食料品ならば、通常より高い価格でも買う意志がありますか。

1. 2倍までなら買う (7.1)
  2. 1.5倍までなら買う (11.5)
  3. 少し高い程度なら買う (69.7)
  4. 特に買わない (9.9)
- 1.9

質問-28 お宅では、月々の食費の内青果物の購入費は何%になりますか。

1. 10%未満 (22.3)
  2. 10~19% (29.1)
  3. 20~29% (24.8)
  4. 30~39% (12.1)
  5. 40~49% (5.0)
  6. 50%以上 (2.2)
- 4.6

質問-29 お宅では、月々の食費の内加工食品の購入費は何%になりますか。

1. 10%未満 (52.3)
  2. 10~19% (26.3)
  3. 20~29% (12.4)
  4. 30~39% (3.1)
  5. 40~49% (0.6)
  6. 50%以上 (0.9)
- 4.3



質問-30, 31, 32では、ご自分と配偶者について別々にお答え下さい。

自分		配偶者	
質問-30	就業の状態	就業の状態	
	1. 常用, 常勤 (53.6)	1. 常用, 常勤 (44.3)	
	2. パートタイム, 臨時 (9.9)	2. パートタイム, 臨時 (12.4)	
	3. 失業中 (1.9)	3. 失業中 (0.9)	
	4. 主婦・家事手伝い (19.5)	4. 主婦・家事手伝い (25.7)	
	5. 引退, 隠居 (10.2)	5. 引退, 隠居 (5.3)	
	5.0	11.5	
質問-31	現在の職業 (失業, 引退の場合は元の職業) (略)	現在の職業 (失業, 引退の場合は元の職業) (略)	
質問-32	最終学歴	最終学歴	
	1. 中学 (旧制小学校) (21.4)	1. 中学 (旧制小学校) (18.9)	
	2. 高校 (旧制中学) (53.6)	2. 高校 (旧制中学) (48.3)	
	3. 短大 (旧制高等学校) (9.3)	3. 短大 (旧制高等学校) (6.8)	
	4. 大学・大学院 (11.8)	4. 大学・大学院 (12.4)	
	4.0	13.6	

質問-33 あなたの性別  
1. 男 (51.1) 2. 女 (45.8) 3.1

質問-34 あなたの年齢  
才

30才未満	(6.5)
30才台	(20.4)
40才台	(26.0)
50才台	(24.5)
60才以上	(19.5)
	3.1

質問-35 お宅では、あなたを除いて家族が何人いますか。(略)

	各項目一つだけに○印を付けて下さい				
	0	1人	2人	3人	4人以上
A. 18才以下の子供	0	1人	2人	3人	4人以上
B. 18才以上の息子と娘	0	1人	2人	3人	4人以上
C. 65才以下の大人	0	1人	2人	3人	4人以上
D. 65才以上の大人	0	1人	2人	3人	4人以上

質問-36 世帯全体の収入はおよそどんな構成になっていますか。(略)

質問-37 あなたの世帯全体の年間収入は、ボーナス等を全部含めて(税込み)、およそどれぐらいですか。

1. 300万円未満	(22.0)	4. 700万円~1000万円	(10.2)
2. 300万円~500万円	(31.9)	5. 1000万円~1200万円	(4.6)
3. 500万円~700万円	(19.8)	6. 1200万円以上	(2.5)
		9.0	

質問-38 世帯全体の年間収入のなかで、ボーナスは何%ぐらい占めますか。(略)